

平成12年度

慶應義塾大学体育研究所

活動報告書



目 次

巻 頭 言	1
-------	---

第1部 研究分野

1. 体育研究所プロジェクト研究報告について	3
2. 個人研究業務及び研究活動報告	4
3. 所内定例研究会発表要旨	14

第2部 教育分野

1. 体育理論（スポーツサイエンス）と保健衛生（ヘルスサイエンス）	27
2. 体育実技（スポーツクラス）	28
3. 通信教育部対象の保健体育科目	31
4. 平成12年度体育実技（スポーツクラス）履修者アンケート集計結果	32

第3部 スポーツ振興分野

1. 塾生対象のスポーツ大会	39
2. 公開講座	44
3. 教職員対象フィットネスプログラム	45
4. ディスカッションミーティング	46
5. 他機関との連携	47
6. 所内施設の開放	49

第4部 総務分野

体育・知育・徳育	51
体育研究所及び所内組織図	54

巻 頭 言

体 育 研 究 所

所 長 高 嶺 隆 二

文部省の大学設置基準の大綱化を受けて、本塾大学学部の保健体育科目の位置付けが選択科目に改定されて8回の学年度が経った。在学学生がちょうど2回りしたことになる。当初から戸惑いの中で新しいカリキュラムへの対応を模索しながらの8年間であった。多様な感性を持つ学生のスポーツに対する欲求を模索する日々を送って今日に至ったのであるが、今日本塾大学に在籍する学生はSFCを除いて大学で必修科目としての体育科目が存在したことすら知らない世代である。

しかしながら、その目的はどうあれ保健体育科目を履修する学生数は当初から毎年度延べ9000余人を維持している。少年期から青年期に変換する世代の大学生には、選択科目でしかも半期1単位の体育科目であってもなおスポーツへの参加意欲は強く、健康・体力の維持・増進、技術の習得等に関わる科学的知識の吸収欲求には並々ならぬ潜在意識が潜んでいることが示された。

体育研究所では、所員全員の協力で先般「21世紀のスポーツ・健康教育——慶應義塾を発信源として」と題する研究プロジェクトのまとめを完成させてその報告書を刊行した。

「身体知」の教育と研究の推進は、現在の我が国の高齢社会には欠かせないテーマであると認識する。この課題に日々取り組んできた体育研究所の1年間の活動をここに報告する。

ご一読戴き、ご助言ご指導を賜れば幸いである。

第1部 研究分野

概 要

「21世紀のスポーツ・健康教育——慶應義塾を発信源として——」を大テーマとして、1996年に発足した体育研究所プロジェクトも、2000年を期に報告書をまとめ、「慶應義塾大学体育研究所 プロジェクト研究報告 2000」として無事発刊することができた。このことは、個人研究、教育活動とともに研究所スタッフの幅広い研究活動の集大成であり、また21世紀に向けての体育研究所の新たな指針となるものである。詳細については報告書を御一読いただきたい。

また、慶應義塾学事振興資金による個人研究、共同研究もここ数年継続しており、その研究成果も高く評価されている。

以下、研究プロジェクト報告、個人業績表、所内定例研究発表趣旨を示した。

1. 体育研究所プロジェクト研究報告について

「21 世紀のスポーツ・健康教育——慶應義塾を発信源として——」を大テーマとし、1996 年より継続してきたプロジェクト研究について、2001 年 1 月、「慶應義塾大学体育研究所 プロジェクト研究報告 2000」として発刊した。報告書の内容は、3 つの研究分野において、これまで体育研究所紀要や各学会での発表内容を総括する形でまとめられた。以下に、目次を示したが、詳細については報告書を参照していただきたい。



目 次

巻 頭 言	所 長 高 嶺 隆二	1
編集に寄せて——プロジェクト発足の経緯と報告まで——	前研究委員長 植田 史生	2
第 1 章 総括報告——各班報告の要点と 21 世紀への課題・展望——	研究委員長 松田 雅之	3
第 2 章 今後のスポーツ・健康教育の役割 人文・社会的アプローチ		
1. 人文・社会的アプローチからの報告——研究の発端と展開——	近藤 明彦	7
2. 慶應義塾大学保健体育の歩み	綿田 博人	9
3. 塾生のスポーツ実施と体育実技履修の実態に関する調査	村山 光義	19
4. 学生のスポーツ・運動に対する意識	近藤 明彦	25
第 3 章 自然科学的立場から見た健康問題		
1. 自然科学的アプローチとしての総括 ——4 年間の成果と今後の課題——	今栄 貞吉	37
2. 慶應義塾大学における健康評価システムに関する検討	村山 光義	39
3. 研究所・健康評価システムを用いた実践研究	佐々木玲子	53
第 4 章 スポーツ・健康教育の実践的研究		
1. 実践的研究としての総括——スポーツ・健康教育の実践的教育——	松田 雅之	59
2. 集中講義「アウトドアレクリエーション」における 学生による授業評価	野口 和行	61
3. 慶應義塾大学体育会部員の心理的競技能力に関する研究	上向 貫志	71
4. 剣道における素振りの動作分析——素振り指導法の観点から——	吉田 泰将	77

2. 個人研究業績及び研究教育活動

今栄貞吉（教授）

論文・報告書

著者名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
山内賢、今栄貞吉	静止駐立姿勢時における足底重心位置と下肢筋力の前後バランスとの関係	慶應義塾大学 体育研究所紀要	40	1	1-8	2001	1

学会発表等

発表者名	演題名	発表学会等の名称	抄録等	発表年	月
阿久根英昭、宮崎光次、近藤傳二、清水安夫、今栄貞吉、安藤勝英、篠原しげ子、山内賢	起立時の測定圧力分布図と脊柱彎曲との関係について	第55回日本体力医学会	体力科学 49	2000	9

近藤明彦（教授）

論文・報告書

著者名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
村山光義、近藤明彦、佐々木玲子、植田史生、松田雅之、小森康加	慶應義塾大学大学生の運動実施に関する最新資料——全学部を対象とした調査結果から——	慶應義塾大学 体育研究所紀要	40	1	17-29	2001	1

学会発表等

発表者名	演題名	発表学会等の名称	抄録等	発表年	月
近藤明彦、村山光義、佐々木玲子、小森康加、植田史生、松田雅之	大学生の過去のスポーツ・運動経験、外的要因と自己効力感、スポーツ・運動実施状況との関係	日本体育学会 第51回大会	大会号	2000	10

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

日本スポーツ心理学会理事	通年
--------------	----

安藤勝英（教授）

学会発表等

発表者名	演題名	発表学会等の名称	抄録等	発表年	月
阿久根英昭、宮崎光次、近藤傳二、清水安夫、今栄貞吉、安藤勝英、篠原しげ子、山内賢	起立時の測定圧力分布図と脊柱彎曲との関係について	第55回日本体力医学会	体力科学 49	2000	9

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

塾体育会柔道部師範	通 年
東京学生柔道連盟理事	通 年

篠原しげ子（助教授）

学会発表等

発表者名	演 題 名	発表学会等の名称	抄 録 等	発表年	月
阿久根英昭、宮崎光次、近藤傳二、清水安夫、今米貞吉、安藤勝英、篠原しげ子、山内賢	起立時の測定圧力分布図と脊柱彎曲との関係について	第55回日本体力医学会	体力科学 49	2000	9

植田史生（助教授）

論文・報告書

著 者 名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
村山光義、近藤明彦、佐々木玲子、植田史生、松田雅之、小森康加	慶應義塾大学大学生の運動実施に関する最新資料——全学部を対象とした調査結果から——	慶應義塾大学体育研究所紀要	40	1	17-29	2001	1

学会発表等

発表者名	演 題 名	発表学会等の名称	抄 録 等	発表年	月
望月康司、吉田泰将、佐々木玲子、村山光義、植田史生	剣道の素振りにおける竹刀と足の動きについて	第8回日本運動生理学会・第16回日本バイオメカニクス学会合同大会	抄録集	122	2000 7
植田史生、吉田泰将、佐々木玲子、村山光義、望月康司、福本修二	剣道における素振りの指導法について（その2）——空間打突停止位置における上肢動作の相違について——	日本武道学会第33回大会	武道学研究第33巻別冊	58	2000 9
望月康司、吉田泰将、佐々木玲子、村山光義、植田史生、福本修二	地面反力からみた剣道の面打ちにおけるふみきり動作	日本武道学会第33回大会	武道学研究第33巻別冊	59	2000 9
近藤明彦、村山光義、佐々木玲子、小森康加、植田史生、松田雅之	大学生の過去のスポーツ・運動経験、外的要因と自己効力感、スポーツ・運動実施状況との関係	第51回日本体育学会	大会号	206	2000 10

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

全日本学校剣道連盟常任理事	通	年
第42回全国教職員剣道大会競技副委員長	2000	8
南ドイツ剣道連盟 新年稽古会 剣道講師	2001	1
ハーヴァード大学剣道 特別稽古会 剣道コーチ	2001	2

綿田博人（助教授）

論文・報告書

著 者 名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
須田芳正、田中博史、石手靖、綿田博人、上向貫志	韓国延世大学サッカー選手における認知スタイルについて	慶應義塾大学体育研究所紀要	40	1	57-64	2001	1

松田雅之（助教授）

論文・報告書

著 者 名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
村山光義、近藤明彦、佐々木玲子、植田史生、松田雅之、小森康加	慶應義塾大学大学生の運動実施に関する最新資料——全学部を対象とした調査結果から——	慶應義塾大学体育研究所紀要	40	1	17-29	2001	1

学会発表等

発表者名	演 題 名	発表学会等の名称	抄録等	発表年	月
松田雅之	100M走におけるスピード曲線の即時的フィードバックについて	第51回日本体育学会	大会号	2000	10

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

横浜市民講座 講演	2000	10
三田体育会理事・慶應義塾体育会競走部監督	通	年
東京陸上競技協会理事	通	年
関東学生陸上競技連盟強化委員	通	年

佐々木玲子（助教授）

論文・報告書

著 者 名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
佐々木玲子、高木聡子、小森康加、鈴木智子	週一回の体育実技における運動実施が女子学生の心身の健康度に及ぼす影響について——「エアロビクス」履修学生を対象とした実態調査（Ⅱ）——	慶應義塾大学体育研究所紀要	40	1	9-16	2001	1

著 者 名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
村山光義、近藤明彦、佐々木玲子、植田史生、松田雅之、小森康加	慶應義塾大学大学生の運動実施に関する最新資料——全学部を対象とした調査結果から——	慶應義塾大学体育研究所紀要	40	1	17-29	2001	1

学会発表等

発表者名	演 題 名	発表学会等の名称	抄 録 等	発表年	月
望月康司、吉田泰将、佐々木玲子、村山光義、植田史生	剣道の素振りにおける竹刀と足の動きについて	第8回日本運動生理学会・第16回日本バイオメカニクス学会合同大会	抄録集	122	2000 7
植田史生、吉田泰将、佐々木玲子、村山光義、望月康司、福本修二	剣道における素振りの指導法について(その2)——空間打突停止位置における上肢動作の相違について——	日本武道学会第33回大会	武道学研究第33巻別冊	58	2000 9
望月康司、植田史生、吉田泰将、佐々木玲子、村山光義、福本修二	地面反力からみた剣道の面打ちにおける踏み切り動作	日本武道学会第33回大会	武道学研究第33巻別冊	59	2000 9
鈴木智子、小山さなえ、望月康司、佐々木玲子	幼児の反復的下肢屈伸運動にみられる上下肢の協応	第55回日本体力医学会	体力科学49	6 756	2000 9
近藤明彦、村山光義、佐々木玲子、小森康加、植田史生、松田雅之	大学生の過去のスポーツ・運動経験、外的要因と自己効力感、スポーツ・運動実施状況との関係	第51回日本体育学会	大会号	206	2000 10
小林ゆい、佐々木玲子	狂言における呼吸技法——大蔵流山本家の所作、小舞を中心に——	比較舞踊学会第11回学会大会	抄録集(プログラム)	12-13	2000 11

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

横浜市民講座講師「表現媒体としての身体——多様な身体の可能性——」	2000 10
日本学術会議・体育学・スポーツ科学研究連絡委員会委員	通 年
日本バイオメカニクス学会編集委員	通 年
比較舞踊学会理事	通 年

研究助成等

身体の単一・複数部位使用における動作の抑制機序からみた動作調整の発達	文部省科学研究費(基盤研究C)	190万円
動作様式の違いによる子どもの動作制御系の特性——すばやい反応動作を指標として——	慶應義塾学事振興資金(各個研究)	20万円

石手 靖（専任講師）

論文・報告書

著 者 名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
須田芳正、田中博史、石手靖、綿田博人、上向貫志	韓国延世大学サッカー選手における認知スタイルについて	慶應義塾大学体育研究所紀要	40	1	57-64	2001	1

学会発表等

発表者名	演 題 名	発表学会等の名称	抄 録 等	発行年	月
石手靖、岩波力、内匠屋潔、太田繁、太田あや子	スクーバダイビングの授業運営に関する研究——学生による授業評価からの検討——	第51回日本体育学会	大会号	2000	10

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

慶應義塾大学体育研究所主催ディスカッション・ミーティングにて司会	2001	1
----------------------------------	------	---

山内 賢（専任講師）

論文・報告書

著 者 名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
山内賢、今米貞吉	静止駐立姿勢時における足底重心位置と下肢筋力の前後バランスとの関係	慶應義塾大学体育研究所紀要	40	1	1-8	2001	1
山内賢	静止駐立姿勢時における足底重心位置と下肢筋力との関係	彦根論叢（滋賀大学）		329	61-71	2000	2

学会発表等

発表者名	演 題 名	発表学会等の名称	抄 録 等	発行年	月
澤藤甲、永田俊勝、山内賢、大下聖治	シャトルラン・テストにおける評価の適応性似つについての検討	第55回日本体力医学会	体力科学 49	2000	9
阿久根英昭、宮崎光次、近藤傳二、清水安夫、今米貞吉、安藤勝英、篠原しげ子、山内賢	起立時の測定圧力分布図と脊柱彎曲との関係について	第55回日本体力医学会	体力科学 49	2000	9

吉田泰将（専任講師）

学会発表等

発表者名	演 題 名	発表学会等の名称	抄 録 等	発行年	月
望月康司、吉田泰将、佐々木玲子、村山光義、植田史生	剣道の素振りにおける竹刀と足の動きについて	第16回日本バイオメカニクス学会大会	抄録集	2000	7

著 者 名	学術論文・報告書等の名称	発表学会等の名称	抄 録 等	発表年	月
植田史生、吉田泰将、佐々木玲子、村山光義、望月康司、福本修二	剣道における素振りの指導法について（その2）——空間打突停止位置における上肢動作の相違について——	日本武道学会第33回大会	武道学研究第33巻別冊	58	2000 9
望月康司、植田史生、吉田泰将、佐々木玲子、村山光義、福本修二	地面反力からみた剣道の面打ちにおける踏み切り動作	日本武道学会第33回大会	武道学研究第33巻別冊	59	2000 9

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

財団法人 全日本剣道連盟 社会体育委員会 委員	通 年
財団法人 全日本剣道連盟 情報システム委員会 委員	通 年
全日本剣道連盟社会体育指導員養成講習会（初級）講師・三重	2000 6
全日本剣道連盟社会体育指導員養成講習会（初級）講師・広島	2000 8
全日本剣道連盟社会体育指導員養成講習会（初級）講師・山梨	2000 9
全日本剣道連盟社会体育指導員養成講習会（中級）講師・東京	2000 11
全日本剣道連盟社会体育指導員養成講習会（初級）講師・佐賀	2000 12
全日本剣道連盟社会体育指導員養成講習会（初級）講師・千葉	2001 1
全日本剣道連盟社会体育指導員養成講習会（中級）講師・大阪	2001 3

加藤大仁（専任講師）

論文・報告書

著 者 名	学術論文・報告書等の名称	発表学会等の名称	巻	号	頁	発表年	月
加藤大仁	スポーツとナショナル・アイデンティティ——沖縄海邦国体「焼き捨てられた日の丸」事件を手掛かりに	慶應義塾大学体育研究所紀要	40	1	31-38	2001	1

村山光義（専任講師）

論文・報告書

著 者 名	学術論文・報告書等の名称	発表学会等の名称	巻	号	頁	発表年	月
Mitsuyoshi Murayama, Kazunori Nosaka, Tsugutake Yoneda and Kazutoshi Minamitani	Changes in muscle hardness of the elbow flexors after eccentric exercise	European Journal Applied Physiology	82	5/6	361-367	2000	9
村山光義、近藤明彦、佐々木玲子、植田史生、松田雅之、小森康加	慶應義塾大学大学生の運動実施に関する最新資料—全学部を対象とした調査結果から—	慶應義塾大学体育研究所紀要	40	1	17-29	2001	1

学会発表等

発表者名	演 題 名	発表学会等の名称	抄 録 等	発表年	月
内山孝憲、木村竜司、 村山光義	押し込み反力測定によるヒト上腕の硬 さ評価	第39日本ME学 会大会	医用 電子 と生 体工 学38	S 435	2000 5
村山光義、内山孝憲、 米田継武	摘出筋における筋硬度評価	運動生理・バイ オメカニクス合 同学会	大会 抄録 集	99	2000 7
望月康司、吉田泰将、 佐々木玲子、村山光 義、植田史生	剣道の素振りにおける竹刀と足の動き について	第15回日本バイ オメカニクス学 会大会	大会 抄録 集	122	2000 7
内山孝憲、木村竜司、 村山光義	Elastic — and viscus — like property of the upper arm estimated by the pushing method	World Congress on Medical Phy- sics and Bio- medical Engi- neering.			2000 7
植田史生、吉田泰将、 佐々木玲子、村山光 義、望月康司、福本 修二	剣道における素振りの指導法について (その2)——空間打突停止位置におけ る上肢動作の相違について——	日本武道学会第 33回大会	武道 学研 究第 33巻 別冊	58	2000 9
望月康司、植田史生、 吉田泰将、佐々木玲 子、村山光義、福本 修二	地面反力からみた剣道の面打ちにおけ る踏み切り動作	日本武道学会第 33回大会	武道 学研 究第 33巻 別冊	59	2000 9
村山光義、米田継武	摘出筋における疲労前後の筋硬度変化	第55回日本体力 医学会	体力 科学 49	6 781	2000 9
近藤明彦、村山光義、 佐々木玲子、小森康 加、植田史生、松田 雅之	大学生の過去のスポーツ・運動経験、 外的要因と自己効力感、スポーツ・運 動実施状況との関係	第51回日本体育 学会	大会 号	206	2000 10
木村竜司、内山孝憲、 村山光義	押し込み反力計測による上腕の粘弾性 評価	第21回日本バイ オメカニズム学 術講演会	講演 集	415- 418	2000 11

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

芝浦工業大学 スキー実習 講師	2001	1
-----------------	------	---

研究助成等

筋の硬さ測定における押し込み反力と筋張力との関係	文部省科学研究費（奨励研究）	120万円
--------------------------	----------------	-------

野口和行（助手）

論文・報告書

著者名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
野口和行	慶應義塾高校選択旅行「キャンプ」における自己概念の変容	慶應義塾大学 体育研究所紀要	40	1	47 - 55	2001	1

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

財団法人日本教育科学研究所 研究員	通 年
大学スケート研究会 常任理事	通 年
(財)日本教育科学研究所「アウトドアゲーム講習会」 講師	2000 6
国立オリンピック記念青少年総合センター主催事業「青少年野外教育全国フォーラム」 講師	2001 2

研究助成等

学生を対象としたキャンプの効果測定——自己概念の変容に着目して	慶應義塾学事振興資金（各個研究）	20万円
---------------------------------	------------------	------

須田芳正（助手）

論文・報告書

著者名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
須田芳正、田中博史、石手靖、綿田博人、上向貫志	韓国延世大学サッカー選手における認知スタイルについて	慶應義塾大学 体育研究所紀要	40	1	57-64	2001	1

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

日本フットサル連盟理事	通 年
-------------	-----

村松 憲（助手）

論文・報告書

著者名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
吉成啓子、高瀬クララ、高橋亮輔、村松憲	小型トランポリンを利用したテニスのサーブ練習の効果	テニスの科学	8		74-77	2000	1

学会発表等

発表者名	演 題 名	発表雑誌等の名称	抄 録 等	発表年	月
村岡哲郎、村松憲、竹下大介、福永哲夫	単一筋発揮トルクの推定	第55回日本体力医学会	体力科学 49	2000	9
村岡哲郎、村松憲、竹下大介、川上泰雄、福永哲夫	筋形状からみた受動トルクの規定要因	第13回トレーニング科学研究会		2001	3

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

第12回日本テニス学会運営委員	通 年
(財)日本テニス協会 医科学委員	通 年
日本テニス学会 編集委員	通 年

望月康司（助手）

論文・報告書

著 者 名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
望月康司、大村靖夫、 奥脇透、西園秀嗣	アキレス腱長の特徴	トレーニング科学	12	2	95- 102	2000	12

学会発表等

発表者名	演 題 名	発表学会等の名称	抄 録 等	発表年	月
望月康司、吉田泰将、 佐々木玲子、村山光 義、植田史生	剣道の素振りにおける竹刀と足の動き について	第8回日本運動 生理学会・第16 回日本バイオメ カニクス学会合 同大会	抄録 集	122	2000 7
植田史生、吉田泰将、 佐々木玲子、村山光 義、望月康司、福本 修二	剣道における素振りの指導法について (その2)——空間打突停止位置におけ る上肢動作の相違について——	日本武道学会第 33回大会	武道 学研究第 33巻 別冊	58	2000 9
望月康司、植田史生、 吉田泰将、佐々木玲 子、村山光義、福本 修二	地面反力からみた剣道の面打ちにおけ る踏み切り動作	日本武道学会第 33回大会	武道 学研究第 33巻 別冊	59	2000 9
鈴木智子、小山さな え、望月康司、佐々 木玲子	幼児の反復的下肢屈伸運動にみられる 上下肢の協応	第55回日本体力 医学会	体力 科学 49	6 756	2000 9

小牧久見子（助手）

著書

著 者 名	著 書 名	発 行 所	発行年	月
竹中晃二監訳、荒井 弘和、近河光伸、小 牧久見子、竹本朋代、 伊藤拓、谷口幸一、 松尾直子、松崎千明、 小室史恵、上地広昭、 堤俊彦、松本裕史、 岡浩一郎、本田譲司	身体活動と行動医学	北大路書房	2000	6

論文・報告書

著 者 名	学術論文・報告書等の名称	発表雑誌等の名称	巻	号	頁	発行年	月
小牧久見子、竹中晃二	女子スポーツ選手の摂食行動に関する研究	慶應義塾大学体育研究所紀要	40	1	39-45	2000	1

学会発表等

発表者名	演 題 名	発表学会等の名称	抄 録 等	発表年	月
K. Komaki and K. Takenaka	Risk factors related to eating attitudes of collegiate athletes	ライフスタイル改善のための教育的介入法に関する国際会議 International congress on educational intervention		84-86	2000 4
K. Komaki	Stressors of athletes with eating disorders	5th Annual congress of the european college of sport science	Book of Abstract	405	2000 7
小牧久見子	スポーツ選手の競技レベルと食行動およびストレスの関係	日本スポーツ心理学会第27回大会	抄録集	16-17	2000 9

3. 所内定例研究会発表要旨

体育研究所では、月に1回下記の目的で研究会を行っている。

- 1) 所内の研究の活性化
- 2) 各所員の研究分野の理解
- 3) プロジェクト研究の公表

定例研究会の他、不定期で学会発表の予演会も行っている。これは、体育研究所の教員が学会で発表する際、他の教員にその内容を事前に周知させることや、発表当日までに内容をさらによく吟味するための助言を受ける場となっている。ここでは、自由な討論がかわされ発表者にとって有益に機能する。

以下に、定例で行われた研究会の発表内容について報告する。

第1回 4月11日

(1) 剣道の素振りにおける竹刀と足の動きについて

望月 康司

本研究は、剣道の素振りにおける竹刀と足の動きの個人差について検討することを目的とした。被検者は剣道有段者（4段～7段）3名であった。測定にはハイスピードカメラ1台を使用し、剣先、右拳、左右足関節にマーカーを取り付け、側方より毎秒250コマで撮影した。素振りは1回前進のみと前後1往復の2種類とし、それぞれ以下の4パターンの素振りを行った。

- ① 竹刀が臀部に当たるまで振り上げるもの
- ② 竹刀が身体後方で斜め下、床面に向かうように振り上げるもの
- ③ 竹刀が身体後方で床面と平行になるまで振り上げるもの
- ④ 頭上斜め上方向に高く振り上げるもの

剣先、右拳を結んだ線と床とのなす角度を竹刀の動きとして捉え、左右足関節にとりつけたマーカーの水平方向の動きから、1歩幅に対する比率を足の位置とした。1回前進のみでは、足を始動するタイミングは各被験者によって異なっており、それはどの素振りの種類においても同様の傾向であった。また、竹刀が停止した時点で、左足が完全に静止している例とまだひきつけている最中で動いている例があり、これは各被験者間で特徴的な違いであった。前後1往復の前進においては、1回前進のみとほぼ同等の結果が得られた。後退においては、竹刀停止時点で、ひきつける足の位置が、50%に満たないというような例がみられ、これは少なくとも本研究の被検者の中では特異例であった。

(2) 摘出筋における muscle hardness と muscle stiffness について

村山 光義

目的：本研究では、カエルの脚筋を用い、筋腹への垂直押圧による反力によって硬さを評価し、伸張・収縮等の条件における長軸方向の張力変化との対応について検討することを目的とした。

方法：測定筋には、ウシガエルの腓腹筋、縫工筋を用い、硬さ測定は機械刺激装置による筋腹への押し込み反力計測（3.5mm押し込み時のピーク反力、押し込み圧子直径3mm；押し込み速度7mm/sec）を行った。

実験1：伸展張力と押し込み反力の関係：各筋とも遠位腱部分を、マニプレータに連結

した Force Transducer に固定。1 mm 毎の伸張を繰り返し、随時、押し込み反力を計測した。

実験 2：収縮張力の変化と押し込み反力の関係：実験 1 同様の固定から、チャンバ内の白金電極により、電気刺激を行った。静止長における、10 Hz から 40 Hz のランダムな刺激時の収縮張力および収縮中の押し込み反力を計測した。

実験 3：反復作業による筋疲労前後の硬さ変化：1 Hz の反復刺激により、最大収縮力の 20 % の質量を引き上げる作業を行った。この際、引き上げの移動距離を変位計にて計測し、作業量がほぼ 0 になる時点まで疲労させた。作業前、直後および作業後 10 分間の回復過程の押し込み反力を計測した。

結 果：

1. 腓腹筋、縫工筋いずれも、伸張時の張力増加とともに、押し込み反力も増加を示し、張力と押し込み反力の関係は、直線的傾向を示した。
2. 伸張張力同様に、収縮張力の大小に、押し込み反力も比例関係を示し、収縮張力と押し込み反力にも直線関係が見出せた。
3. 反復作業による筋疲労前後の押し込み反力には顕著な変化がなく、10 分間の回復過程でも硬さに変化はなかった。

考 察：

1. 伸張時の張力や収縮張力の増減に、押し込み反力が比例関係を示した。これらの張力発生は連結橋形成等、筋の長軸方向の生理学的現象に依存すると考える。この stiffness 変化が横軸方向からの押し込みによって評価した「硬さ」にも反映することが示された。
2. 反復作業の前後で硬さが変化しなかったことは、ヒトによる同様の実験報告（日本体力医学会：体力科学：41, P 891, 1992）と異なる結果であった。ヒトにおける作業後の硬さ増大は、筋実質の変化よりも血流や組織液量の増大等の影響が大きいのかかもしれない。
3. 電気刺激による本実験は、弛緩時期に筋線維別の伸長性収縮で筋損傷が生じた可能性は小さい。よって硬さ増加に関連する筋細胞質の変化がなかったと考えられる。

第 2 回 5 月 16 日

(1) 競技種目別による摂食行動の違いについて

小牧久見子

本研究では、大学生女性アスリートを対象に、競技別による食行動および日常・競技ストレスの差の有無を検討した。特に競技特性として瘦身の必要性が極めて高い新体操選手およびダンサーと、一般的に痩身であることと競技特性とは直接関係をもたないソフトボール選手、バスケットボール選手、および一般女子学生の食行動および日常・競技ストレスの傾向を質問紙を用いて行った。

【方 法】 調査対象者全員に身体形態および質問紙調査を行わせた。

A：フェイスシート B：食行動調査票 C：日常・競技ストレス

【結果および考察】

まず、スポーツ競技の特性によりアスリート自身が求める容姿が異なることが明らかになった。特に、5 群の競技の中でも新体操群の食行動得点は非常に高いことが認められた。した

がって、パフォーマンスや容姿が痩身であることを重要視するスポーツにおいて食行動異常は大きな頻度で現れることが認められた。また、本研究の結果、日常・競技ストレスは、競技特性における有意な差は認められなかったことから、スポーツ競技の特性にかかわらず存在することが推測された。

(2) 週一回の体育実技実施が学生の総合的健康度に及ぼす影響Ⅱ

佐々木玲子

これまで本塾の体育実技（エアロビクス）履修者を対象として、実技の実施が体力ならびに精神的健康度に与える影響について検討し報告してきた（佐々木他，慶應義塾大学体育研究所紀要，1999.，佐々木他，第54回日本体力医学会，1999.）。これまでの報告においては、履修者のほぼ全員を対象として平均的に処理したものであった。本研究では、対象を絞り、自らの健康・体力に比較的積極的に関心を持つ学生を募り、随時結果の還元を行なうなど、学生へのサービスプログラムの要素を加え、さらに詳細な項目を設けて測定や調査を行なった。対象者は、ウィークリースポーツクラス「エアロビクス」受講学生の中の23名であり、調査、測定項目は以下のとおりであった。

○形態（身長，体重，体脂肪率，BMI，胴囲，上腕囲，大腿囲，下腿囲）計測

○健康関連体力（全身持久性，筋持久力，脚パワー，柔軟性）の測定 授業初期と終期の2回

○日常の運動行動および運動意識に関する調査

○栄養調査

これらの測定および調査項目から得られた主な結果は以下のとおりである。体力測定の結果から、授業における毎回の運動量は十分であっても、週に1回という頻度の運動では、身体機能に直接効果を及ぼすことはほとんど期待できない。但し、女子における筋持久力（上体起し）の向上にみられるように、対象、体力要素によっては効果がみられる可能性も示唆された。栄養調査の結果から、現代の若年女性に不足しがちだといわれる栄養素（鉄，カルシウムなど）については、必要量に満たない摂取状態であるものが多くみられた。健康・体力について考える場合、運動による「エネルギーの消費」だけでなく、エネルギー及び各栄養素の「摂取」面についても日常的に考慮する必要性が示唆された。さらに、これまでも用いてきたヘルスチェックの実施など心理的側面も加え、学生の健康・体力について継続的、総合的に捉えていくことが必要であろう。

第3回 6月13日

(1) フットサル日本代表選手と授業履修者の認知スタイルの比較

須田 芳正

目的：本研究は、フットサル選手の認知スタイルを明らかにするとともに、今後の研究および指導の基礎的資料を得ることを目的とした。

被験者：フットサル日本代表選手12名，慶應義塾大学においてフットサルの授業を履修している学生35名、計47名であった。

結果：フットサル日本代表選手と授業履修者の認知スタイル得点の平均値の差を検定したところ0.1%水準で日本代表選手よりも授業履修者の得点の方が有意に高かった。この結果より、日本代表選手は授業履修者よりも場依存的傾向が強いことを示している。従来の我々の研究グループでサッカー選手を対象とした研究成果は競技力が高いほど場依存的傾

向が強いことが明らかにされている。フットサルはサッカーに競技特性が似ていることからフットサル選手においても同様な事が言えることが明らかになった。

(2) 慶應義塾高校選択旅行「キャンプ」における自己概念の変容

野口 和行

本研究は慶應義塾高校選択旅行「キャンプ」参加者における 1) キャンプ前後の自己概念・自己意識の変容を明らかにする 2) 参加者の印象に残ったプログラム・キャンプ場面が自己概念に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

本研究の対象者は、平成 11 年度慶應義塾高校選択旅行「キャンプ」に参加した高校 1 年生及び高校 2 年生計 94 名であった。調査用紙は梶田が作成した自己成長性検査を使用し、印象に残ったキャンプのプログラム及びキャンプ場面に関する質問項目を作成し、それぞれ 5 件法で回答してもらった。調査時期はキャンプ開講式前および閉講式直前に行った。

自己概念の変容に関しては、4 つの下位尺度（達成動機、努力主義、自身と自己受容、他者のまなざしの意識）すべてにおいてキャンプ後の得点が向上し、努力主義因子において 0.1 % 水準で有意差が見られ、達成動機因子において有意性傾向が見られた。これは、キャンププログラムの中にグループビバークというアドベンチャープログラムが取り上げられ、困難な課題に挑戦し達成したということが要因の 1 つであると考えられる。

また、印象に残ったプログラム・キャンプ場面に関する因子分析を行ったところ、5 つの因子が抽出された。それぞれの因子について 1) パーティーに関する因子 2) 冒険プログラムに関する因子 3) キャンプ経験に関する因子 4) 自然体験に関する因子 5) コミュニケーションに関する因子と命名した。自己意識の下位尺度及びキャンププログラム因子の相関をみたところ、いずれも高い相関は見られなかった。どのようなプログラム・キャンプ場面が自己概念の変容に影響を及ぼすかについては今後も検討の余地があると思われる。

第 4 回 7 月 4 日

(1) 剣道の素振りにおける剣先軌跡の三次元的分析

吉田 泰将

【目 的】 '98 の日本武道学会において、我々は剣道における正面素振りについて、(素振り ① 竹刀が臀部に当たるまで振り上げるもの・素振り ② 竹刀が身体後方で斜め下、床面に向かうように振り上げるもの・素振り ③ 竹刀が身体後方で床面と平行になるまで振り上げるもの・素振り ④ 頭上斜め上方向に高く振り上げるもの) の 4 タイプに分類し、その各局面における剣先の移動等に着目した。その結果、素振り ③ のように振り上げた場合の最終局面における剣先速度が高いことを報告した。そこで今回は前述のタイプによる素振りの相違について、剣先及び両拳の軌跡及び正中線からの距離（ずれ）に注目し、それぞれの特徴を明らかにすることを目的とした。

【方 法】

- (1) 被験者：剣道有段者男子四段～七段の者 3 名とした。
- (2) 対象動作：前述の 4 タイプの素振りを一本のみ前進して行うものと 6 動作連続（前後 3 往復）行うものを実施させた。尚、剣先の振り上げ最高位置をよく意識して行うよう指示した。
- (3) 測定方法：各動作を 2 台のハイスピードビデオカメラ（Nac, HSV-500 C3 シャッター スピード 1/250 sec.）で 2 方向より撮影した。

(4) 測定箇所：剣先（竹刀先端点）、右握り点、左握り点

(5) 分析方法：撮影した画像を Image Express Model 100 (Nac) で取り込み、MOVIAS (Nac) により解析を行った。

【結果と考察】 第1局面と第8局面の剣先及び両拳の移動軌跡及び正中線からの距離（ずれ）に注目した。剣先は素振り①②③④すべてにおいて、振り上げ局面の第1局面ではほぼ正中線に沿った軌跡を辿るのに対して、振り下ろし局面の第8局面ではやや右側を通ることが示唆された。

(2) 剣道における素振りの指導法について（その2）

植田 史生

平成10年日本武道学会第31回大会において正面素振りにおける空間打突停止位置における上肢動作の相違について発表した。このことは、素振り1（右拳を右肩の高さで停止する）、素振り2（剣先が頭頂点の高さで停止する）の動作を有段者を対象に比較を行った。素振り1は右腕を肩の高さで止めようとする働きが見られ、ブレーキをかけている動作を行っていた。また、竹刀停止後も筋放電量が大きく持続しており、次の動作への移行にも困難ではないかと考えられた。本研究は、未経験者を被験者とし、素振り1、素振り2の動作を比較検討した。

【結 果】 素振り動作時間では、「竹刀の起こり」から「振り上げ最高」において、素振り1が短い傾向を示し、「竹刀の起こり」から「竹刀停止」までの動作時間においても同様の傾向がみられた。これらのことは、第31回大会での有段者と逆の傾向であった。未経験者では、素振り1、素振り2においても、振りかぶり動作時間と振り下ろし動作時間があまり変わらないが、有段者においては、素振り1、素振り2においても、振り下ろし動作時間が短い傾向であった。また、竹刀速度最高から竹刀停止までの動作時間においても同様の傾向がみられた。竹刀剣先最大速度は未経験者、有段者共に素振り2が速い傾向を示した。

【まとめ】

1. 未経験者では、動作中の筋放電様相から、肘関節の屈曲伸展を伴わず両腕全体で素振り動作を行っていることが推察された。
2. 未経験者の竹刀剣先の最大速度は、熟練者同様に素振り2の方が大きい値を示した。
3. 熟練者においては、竹刀最大速度出現時が素振り動作終了直前にみられるのに対し、未経験者では振り下ろし動作の前半にみられた。

第5回 9月12日

(1) ヒトの腓腹筋の腱および腱膜の機械的特性

村松 憲

【目 的】

1. ヒトの腓腹筋の腱および腱膜のストレインを測定すること
2. 腱と腱膜のストレインを比較すること
3. 腱膜のストレインの部位差を検討すること

【方 法】

被検者：成人健常男性7名。腓腹筋内側頭、足底屈等尺動作。超音波装置、高速度カメラ。

【結果と考察】

腱、腱膜の最大ストレインはそれぞれ約、5、6%。腱と腱膜のストレインに差なし。

腱膜のストレッチに部位差なし。

(2) ウォーキング——その10の分類——

近藤 明彦

近年、ウォーキングがブームとなりその実施者も増えつつある。本塾でも、本年4月よりウォーキング・エクササイズの授業を新たに開設したわけであるが、この背景には、スポーツ・運動の実施に関しての過去のキャリアが乏しく、運動実施をためらうような学生でも参加できるような形態の授業展開の必然性を感じたからである。

スポーツ・運動に対しての参加意識が低い学生に対し、運動の継続的实施を呼びかける場合、健康のために運動しようと言っても、理解はすれども実際の継続的实施が図れるかは疑問である。そこで、ウォーキングを行う目的にはどのようなものがあるかを分類することにより違った方向からのモチベーションのあり方を検討するために、市村、近藤によるウォーキングと精神の関りから見たウォーキングの10の分類を概説した。

- (1) 思索の歩行……歩きながら考える、思索を深めるために歩く様式である。
- (2) 宗教的歩行……悟りへの歩行と言ってよいかもしれない。
- (3) 自然観照の歩行……静かな心で自然に向かい、その本質を見ようとする態度という意味で「観照」という言葉を使う。
- (4) 達成への歩行……ヒマラヤ征服を頂点とするアルピニズムの歩行は、「やったぞ！」という達成感を求めている歩行である。
- (5) 訓練の歩行……歩行の中で、身体や根性や団体行動の技能の訓練するための歩行である。
- (6) 余暇活動としての歩行
……ひまなときに目的もないぶらつく歩きである。
- (7) コミュニケーションのための歩行
……恋人たちのそぞろ歩き。友人同士の二人歩き、家族の歩き、そして英国のランブリング・クラブの歩行などを考慮すると人々はコミュニケーションのために歩くのではないかと考えられる。
- (8) 教育的歩行……明治に始まる学校教育の中での遠足は、身体訓練の他にも自然学習、社会学習などの教育的目的を持っていた。
- (9) 見せる歩行……渋谷や原宿を着飾って歩いている若者は、単に群れているのではなく、見せるために歩いている。
- (10) 健康のための歩行、フィットネス・ウォーキング
……ジョギング人気が少し後退し、ウォーキングが盛んになってきた。

第6回 10月17日

(1) スクーバダイビングの特性を体育実技にどう生かすか——その2——

石手 靖

スクーバダイビングというスポーツの特性やその運動の要素を理解した上で、それが大学生のスポーツ活動にどのように取り入れられるかという可能性を検討した。今回は、体育実技として実施している10大学の履修生に対して行なった、授業に関するアンケート調査を下に、スクーバダイビングに関する意識と、授業の内容及び運営方法等の検討を試みた。主な

結果として、スクーバダイビングの実施に際しては、他のスポーツに比べ、費用のかかることが、授業での実施を含めて、大きな阻害要因となっていることが認められた。しかしながら、初めてスクーバダイビングを経験してみようと決断した学生には、危険なスポーツであるという意識は少なかった。宿泊を伴う授業の内容及び運営方法には、肯定的な意見が多く、基本的なダイビング技術の習得やグループワーク、自然とのふれあいに対して、高い評価を得た。今回の調査からの結論として、大学生にとってスクーバダイビングは、身体的、精神的かつ知的な活動として意義のあるスポーツであることが示唆された。今後の課題としては、大学における体育の目的と大学におけるスポーツ活動の意義を再確認し、スクーバダイビングに期待できる社会生活の価値（環境との調和、バランスの取れた考え方、豊かな感性、健康の維持、精神力・体力の向上等）を大学に取り入れるための新たな実践方法を見出したいと考える。

(2) 国民リーグについて

綿田 博人

1. 1946年プロ野球観客動員数……156万1165人
2. 宇高産業 宇高勲が1946年に日本野球連盟会長鈴木竜二に新球団のリーグ加盟を申請……却下
3. 1947年国民リーグがスタート
宇高レッドソックス・結城プレブス・唐崎クラウン・大塚アスレチックスの4球団
夏季リーグ30試合・秋季リーグ30試合 わずか1シーズン限りで消滅。

第7回 11月14日

(1) 国際柔道の様々な問題点——特にシドニーオリンピックから——

安藤 勝英

シドニーオリンピックでは、男子100kg以上のクラスの決勝で、篠原（日本）対ドイエ（仏）の「内股透かし」の技をめぐる問題を残した。

競技柔道が一般的に理解しずらくなったことから、国内柔道（講道館柔道）が世界のJUDOとしていかに変化したかについて、以下の点について述べた。

1. 体重別の導入
2. 日本文化の違い（静と動、間の問題）
3. 審判方法（判定の細分化）

(2) 直立姿勢の保持と足

篠原しげ子

二人で組んで踊るダンスの場合、真っ直ぐに立つこと。また、相手に迷惑をかけずに、動きをスムーズに行うために、バランスを正しく保つ必要がある。

ダンス履修学生の直立姿勢を見ると頭部の前傾が見られるとともに、バランスを崩して踊りにくそうである。今回は 直立姿勢を保つのに必用と思われる筋肉、特に、頭の前屈を防ぐ働きをする、後頭下筋群、後方への反りを防ぐ頸椎前部にある筋群、又、バランスを保つために必用な足の腱や筋について 解剖学的資料を紹介した。

(3) Jリーグ18チーム全登録選手のBMIに関する検討

今栄 貞吉

肥満や痩せの程度を簡便に把握、検討する方法であるBMI（Body Mass Index）を用い

てプロサッカー選手の BMI の実態を調べることを主目的とし、さらに ポジションによって BMI に有意差がみられるかどうか等についても検討を行なった。

J リーグ18チーム全登録選手 (1998. 3. 21 現在) 554 名を対象とし、個々人の身長 (m)、体重 (Kg) から BMI を算出した。

全体の BMI の平均は 22.3、標準偏差 1.3 であり、BMI による肥満の判定区分の適正範囲 $18.5 \leq < 25$ 内にあり、しかも全登録選手の 98.2% が該当していた。

ポジション別に BMI の平均と標準偏差をみると

GK 22.4、1.3 DF 22.4、1.1 MF 22.3、1.3 FW 22.3、1.3 であり

各ポジションの BMI は殆ど同じであった。

J リーグ18チーム全登録選手の BMI は、最も疾病が少なく、最も有病率が低く、最も死亡率が低いといわれている22前後であり、脂肪量の少ない、筋骨のよく発達した望ましい体であることを示唆していると思われる。

第8回 12月5日

(1) 権力・権威・正統性とスポーツ

加藤 大仁

通常政権担当者は、自らの政権運営を安定的かつ永続的におこなえるような環境作りに努めるであろう。つまり、ある政権・政治体制が安定して存続するためには、それが国民に正当なものとして受け入れられることが前提条件となるので、政権担当者はシステムの正当性を高めるために、さまざまなチャンネルを通じて、国民の政治的社会化をおこなうのである。このような環境作りの手段として、スポーツが利用されているということは、これまでも何度となく指摘されてきた。

ところで、「権力」という概念には様々な定義が与えられてきたが、何れにせよ権力関係を背景に、ある種の秩序や支配関係が生まれてくるということではできよう。このような状況の発現は、社会の中で対立を生むと同時に、人々の行為選択に指針を与え、信頼しうる安定性をもたらす。したがって、ある程度の広がりをもった政治社会にとって、「権力」は不可欠の要素であるともいえよう。

この行為選択の指針を与えるものは、各社会で一連の行動プログラムとして人々の了解を得ている必要がある。スポーツはこのような了解を浸透させるためのチャンネルのひとつとして考えられるのがあるが、その社会的影響力の大きさから考えても、より一層の考察が求められるよう。

(2) 「慶應義塾大学体育研究所 プロジェクト 2000」総括報告

松田 雅之

1996 年に発足した体育研究所プロジェクトも、本年度中に完成し、「慶應義塾大学体育研究所 プロジェクト 2000」として発刊する事となった。発刊にあたり、各プロジェクトの報告内容の公開、及び内容への意見交換の場とする為、今回は、現研究委員長の立場から、総括報告をおこなった。

巻頭言

編集に寄せて——プロジェクト発足の経緯と報告まで——

第1章 総括報——各プロジェクト報告の要点と 21 世紀への課題・展望——

第2章 今後のスポーツ・健康教育の役割 人文・社会的アプローチ

第3章 自然科学的立場から見た健康問題

第4章 スポーツ・健康教育の実践的研究

以上、各章に分かれた各プロジェクト班の総括報告を行った。また、これからのプロジェクト研究の在り方や、体育研究所における研究会の在り方についての意見交換を行った。

第9回 1月16日

(1) 障害者のスポーツ指導——全盲者に対するスキー指導体験——

山内 賢

スポーツを愛することは、万人に許される当然の権利であるが、障害者にとっては、この権利の獲得が何らかの環境や条件によって、しばしば達成できないことがある。

その理由には、① 身体に障害があるためにできないこと、② 身体に障害があるためにスポーツによる事故の心配、さらに、③ 身体の障害を増悪化させるおそれ、などの疎外要因が上げられる。スポーツにおけるバリアフリーとは、これらの要因をできるだけ回避し解決することにある。そのためには、障害者の持つ何らかの身体的障害を、「その人間の持つ個性である。」と考える基本理念を持つことに始まり、そして、健常者が常時行っているスポーツに、上記の①から③の制限をなんとか克服するための、ちょっとした創意工夫をほどこすことが必要となる。具体的には、医師の診断を参考にした補装具の使用や補助者の利用のことである。そのアイデアは、障害者が健常者と同様にスポーツを楽しませるための直接の解決策となるが、そこには、必ず専門のスポーツ指導者（障害者スポーツ指導員）が、この克服に関して大きく貢献することを忘れてはならない。ここで、スポーツを楽しむために必要となる指導者の指導上の留意点を考えてみる。それは、「技術技能の向上を測ること」、「危険が予測できる要素を除去すること」、「技術技能の向上に対して正しい評価をすること」などが上げられる。これらのことは、障害者も健常者もなんらかのかわりのない事である。

今回、障害者のスキー指導に関する貴重な体験をしたので、この実際の指導体験を今後の障害者スポーツ指導における何らかの手がかりとして行きたいと思う。

スキー指導した障害者は視覚障害である。医学的な視覚障害の定義は、「原因の如何を問わず、眼球、視路、視中枢のどこに病変があろうとも、視機能に永続的な低下がおこった者」であり、障害の実際の内容は、先天性の未熟児網膜症による全盲であった。

全盲者におけるスポーツ指導において、障害者への理解は必須である。例えば、彼らの行動に関しては、『彼らの情報を得る手段を知ること（場合によるが、聴覚、触覚、わずかに感じられる光覚）』や、『失明年令を知ること（視覚イメージの形成）』に留意することである。接し方に関しては、『接触による誘導の必要性』や、『具体的な言語の使用（方向に関して、時計の針などを流用）』に留意することである。そして、指導方法は、『障害の内容に合わせた運動内容の決定』や、『指導体制の確立（個別なのかグループなのか）』、および、『指導の手段（言葉、コミュニケーション、音、触覚）』に留意することが必要となる。また、障害者がスポーツを楽しむために必要なスポーツにおける指導者の指導上の留意点は、1) 正しい姿勢、2) 正しい運動量、3) 正しい伝達と指示、4) 安全の管理（場所の設定と用具の点検、管理）、5) 視覚を補う補助具の利用、6) ルールの工夫、7) 個別性、8) 医学上のもの（障害についての理解、）9) 外力（運動）による障害の悪化防止（保有する視機能の保護）、などである。

以下に全盲スキーヤーの指導現場で気づいた点をあげる。

- (1) ほとんどの課題をとにかく自分自身で行うことが基本であった。例えば、実習前夜のフォーム（実習当日に行う推進滑走、ブルークなどのメンタルコンセントレーション等）、道具のチェック（ゼッケンやゴーグルなど安全に関するアイテムのつけ方、ブーツの履き方、スキーの持ち方等）のことである。
- (2) 指導の教程は、健常者の者とほぼ同じであったが、ブルークをつくるためのアイテム（アメリカでの開発）の導入をすることによる指導方法が確認できた。
- (3) リフトにできるだけ早く乗せる様に心掛ける。スキーをつけて歩行ができたらずぐに乗せた。時間にして約30分。
- (4) 言葉使いに気をつける。方向は時計の時間を利用するなど、出来るだけ具体的に説明する。
- (5) 音での誘導。音の方向を向くことによる体の回旋を利用したターンの導入から身体の傾き（肩）の変化からの荷重によるターンへの発展といったスムーズな指導法。
- (6) 本人の感想は、「光覚を感じられない場所があって、その場所や音が反響する場所が恐かった。（これらは両面が木におおわれていた場所であった）」、「面白かった。」、「風の動きを感じた。」、「スピードに対する恐怖感は少しあるが、先生を信頼しているので、楽しい。」、「足の裏がくすぐったい。」等の内省報告を得ることが出来た。
- (7) 指導者側の感想は、視覚障害者の運動の平衡感覚は健常者以上の者を感じた。具体的には、スキーをつけて30分で歩行、推進滑走が出来た事実と転倒時にすぐ立った事実のことである。そして、聴覚の発達はずばらしい。実際自分もアイマスクをつけてやってみたが、伊達にイメージがある分恐怖感が先に立ち、とても真似できるものではなかった。3日後に補助器具なしで滑ることができたことには、驚きを感じた。あとはスピーカー誘導による課題を残すだけであった。

(2) 授業中の高校生水死事故に対する

——損害賠償請求事件について（一審判決と控訴審）——

高嶺 隆二

前回報告した標記の事件の裁判で、裁判所は「教員の指導方法、監視の体制、救助のためにとった行動に安全配慮義務違反は無かった」として、原告の請求を棄却した。

（一審の争点と判決）

(1) 技能に差のある生徒を同時に泳がせたことの是非

・原告 技能に差のある生徒を同時に泳がせたことが原因

☆判決 生徒の能力に見合った適切な指導方法の選択を誤った義務違反はない。

教員は、水泳が不得意と申告した10名の生徒を1・2コースを使って指導した。その中でも比較的水泳能力の有る者を2コースに配置した。被害生徒もその中の1名であり、息継ぎがうまく出来なかったが、一応クロールで泳ぐことができたから、2コースで練習した。

（筆者注：3回目の授業までは区別していたが、事故のあった4回目の授業は混在したコースで泳がせていた。）

(2) 教員の取った監視行動の是非

・原告 教員は、危険の認識が甘く、監視能力を超えた方法で泳がせた。見学の生徒にも監視役を指示すべきであった。

☆判決 教員は、スタート台側のプールサイドを移動しながら、泳いでいる生徒の全体状況を見ていた。教員がその間生徒に指摘されるまで被害生徒の異変に気づかなかったことは、教員の生徒に対する目配り・監視が十分でなかったとの批判の余地は残るが、これをもって監視義務違反とは言い難い。

(3) 異常事態の認識について

・原告 被害生徒の異常な状態を漫然と見過ごし、危機感をもっていなかった。

☆判決 被害生徒が途中で泳がいたり手足をばつかせたりした様子はなく、被害生徒の浮かんでいた位置が比較的ゴールに近かったこと、他の生徒の指摘で異変に気づいたものであるが、仮に発見の遅れを過失としても発見が早くても被害生徒は死亡していた可能性が高いから、その死亡と因果関係はない。

(4) 救命活動（体制）について

・原告 事故発生時の救急連絡に時間がかかり、教員の救命手段も悪い。

☆判決 異常事態の発生からプールサイドに引き上げられて救助活動が始められるまでの時間は（証拠から）多めに見ても1分30秒前後であり、仮に発見の遅れを過失としても発見が早くても被害生徒の死亡の結果が避けられたとの心証を得ることは出来ない。したがって仮に発見の遅れを過失としてもその死亡と因果関係は認められない。

これに対して原告側は、直ちに控訴した。

（控訴理由）

1) 教員の監視義務違反として

「生徒の通報があるまで被害者の異常を見過ごした」

2) 教員の救護のための義務違反

「教員は被害生徒を引き上げ後、直ちに人工呼吸と心臓マッサージを併用すべき処を、それを実施しなかった」

☆原告代理人の弁護士の戦略としては、

「最近の裁判例によると、監視義務違反があっても、救助が余程遅れない限り、安全配慮義務違反を認定しない。また監視義務違反があっても、心肺蘇生法をそれなりに行っていれば義務違反はないという判断もある。」という事を念頭に、教員が実施した用手人工呼吸法「ジルベスター式」(※1)は非効率的な蘇生法であったとして争う姿勢を取っている。

本件事件（平成8年）の教員が歴史的に旧式とも思える「ジルベスター式」を用いた対応が妥当であったかが争いの焦点となる。救急蘇生法の是非を裁判所がどのように判断するかを見守りたい。

(※1) ジルベスター式人工呼吸法とその他の人工呼吸法

（小森栄一「水泳指導と救助法・人工呼吸法の歴史」昭和54年 二宮書店 PP 141 参照）

ジルベスター式人工呼吸法は、1858年、ジルベター（Silvester）がこれまでの横臥位で胸を背中の方に押す方法を、仰臥位にして胸を圧迫 → 解放を繰り返す方法を考案し「ジルベスター式」として普及させた。

その後、1887年にハワード（Howard）それを改良した「ハワード式」を考案す

るのであるが、我が国・日本赤十字社は、1933年（昭和8年）セーファー博士（英国）の考案による「プローン・プレッシャー・メソッド（伏臥圧迫法）」を採用するまでは「ジルベスター式」と「ハワード式」を広く用いていた。

また、1932年には、デンマーク人のニールセンによって「ニールセン式（伏臥背部圧迫、腕引き上げ法）」が考案された。

小森は、1952年に米国で開催された赤十字世界会議に出席して「ニールセン式」に興味をもち、これまでの「ジルベスター式」「ハワード式」に代えて国内での「ニールセン式」の普及に努めた。

1960年（昭和35年）、シドニーで「人命救助実技に関する国際会議」が開催され。「口から口へ法（マウスツーマウス法）」が紹介され、最も効果的な方法であることが証明され、現在、我が国では最も合理的かつ有効な蘇生法として広く用いられている。

第2部 教育分野

概 要

体育研究所では、すべての塾生に対して広く保健体育科目履修の門戸を開き、さまざまな角度からスポーツ・運動活動に接する場を提供している。多くの種目がプログラムされている実技のみならず、講義においても、人文・社会科学的、あるいは自然科学的な視点に立ったアプローチから理論を展開し、スポーツ・運動科学の様々な側面に触れることが可能になっている。以下に掲載の資料は、体育研究所設置科目である「保健体育科目（保健衛生・体育理論・体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ）」の平成12年度担当者ならびに履修統計である。また、通信教育部については、夏期・冬期のスクーリングにおける「体育実技開講科目および担当者一覧」、「体育理論担当者一覧」等を掲載した。

さらに、体育実技の履修者による授業評価のアンケート結果について、「体育実技Ⅰ（春学期・秋学期）」、「体育実技Ⅱ」それぞれ種目別の集計と自由記述による塾生からの意見を掲載した。

1. 体育理論（スポーツサイエンス）と保健衛生（ヘルスサイエンス）

各講義名と担当者及び履修者数を表1-1（体育理論）、表1-2（保健衛生）に示す。

表1-1 平成12年度 体育理論（スポーツサイエンス）のテーマ及び担当者

講義名	コマ数 春 秋 計		担 当 教 員	履修者数
スポーツ心理学における俗説と真理	1	1	近藤明彦	23
アウトドアを考える	1	1	村山光義・野口和行	6
ライフセービング	1	1	山内 賢	18
アスリートのためのスポーツ医・科学	1	1	近藤明彦・佐々木玲子・大西祥平（スポーツ医学研究センター）	34
オリンピックとスポーツ	1	1	松田雅之	16
スポーツと身体（からだ）の基礎理論	1	1	吉田泰将	46
競技スポーツにおけるメンタル・マネジメント	1	1	近藤明彦	28
健康・体力へのアプローチ	1	1	今栄貞吉・安藤勝英・山内 賢	12
スポーツ上達の基礎知識	1	1	植田史生・石手靖・村山光義	12
スポーツと国家・法	1	1	高嶺隆二・加藤大仁	12

表1-2 平成12年度 保健衛生（ヘルスサイエンス）のテーマ及び担当者

講義名	コマ数 春 秋 計			担 当 教 員	履修者数
生活習慣病の正しい知識とその予防	1	1		河邊博史	8
親準備学（子どもの心身の成長と発達）	1	1	2	木村慶子	37
環境と健康	1	1		斎藤郁夫	10
病気の予防とライフスタイル	1	1		辻岡三南子	11
遺伝・環境と現代病	1	1		南里清一郎	9
医学概論	2	2	4	橋本治雄	39
体重コントロールと諸問題	1	1		広瀬 寛	3
災難を避けるための医学的基礎	1	1		森 正明	12
知的飲酒のすすめ	1	1		横山裕一	10

2. 体育実技（スポーツクラス）

体育実技は、Ⅰ（ウィークリースポーツクラス）とⅡ（シーズンスポーツクラス）に分けられる。表2-1にウィークリースポーツクラスの担当者とそれぞれの担当種目、表2-2、3にはそれぞれ、ウィークリースポーツ、シーズンスポーツクラス各種目の履修統計を示す。表2-4には、学部ごとの履修者統計を示す。

表2-1 平成12年度 体育実技Ⅰ（ウィークリースポーツクラス）担当者及び担当種目

	担当者	種 目
教 授	橋本 治雄	ゴルフ
"	今栄 貞吉	体力UPコース
"	高嶺 隆二	水泳、体力UPコース
"	近藤 明彦	陸上競技、ジョギング、テニス、ウォーキングエクササイズ
"	安藤 勝英	柔 道
助 教 授	篠原しげ子	ダンス
"	植田 史生	剣 道
"	綿田 博人	野球、ゴルフ
"	松田 雅之	陸上競技、ジョギング、体力UPコース、卓球
"	佐々木玲子	エアロビクス、テニス
専 任 講 師	石手 靖	バレーボール
"	山内 賢	ハンドボール、バスケットボール、ニュースポーツ、体力UPコース
"	吉田 泰将	剣道、体力UPコース
"	加藤 大仁	バスケットボール
"	村山 光義	バレーボール、テニス、フライングディスク
助 手	野口 和行	ニュースポーツ、バレーボール
助手（嘱託）	須田 芳正	サッカー、フットサル
"	村松 憲	テニス
"	望月 康司	ソフトボール
"	小牧久見子	エアロビクス、ソフトテニス、バレーボール
スポーツ医学研究センター 非常勤講師	勝川 史憲	ウォーキングエクササイズ
"	上向 貫志	サッカー
"	内田 順	サッカー
"	遠藤 千草	ソフトボール
"	岡部 英紀	合気道
"	加藤 幸司	バドミントン
"	木塚 孝幸	バスケットボール
"	後藤 完夫	アメリカンタッチフットボール
"	小林 徹	バレーボール
"	白井 巧	バドミントン
"	鈴木 智子	エアロビクス
"	砂押 雅夫	ボクシング
"	谷口こゆき	バスケットボール
"	手島智佳子	テニス
"	内藤 尚男	ソフトテニス
"	野口 祥一	弓 術
"	横田 修平	ソフトテニス
"	平井 克英	バドミントン
"	藤平 信一	合気道
"	堀場 雅彦	テニス
"	山田美絵子	バレーボール
"	吉田 武	卓 球
"	吉村 和純	ホッケー

表 2-2 平成12年度 体育実技 I (ウィークリースポーツクラス) 種目別履修状況

地区	科 目 名	コ マ 数		計	定 員	登 録 数	倍 率	履修者数	充 足 率
		春学期	秋学期						
日 吉 地 区 開 設	アメリカンタッチフットボール	1	1	2	120	36	0.30	37	31%
	ウォーキングエクササイズ	1	1	2	60	49	0.82	54	90%
	エ ア ロ ビ ク ス	9	9	18	450	423	0.94	396	88%
	ゴ ル フ	6	6	12	260	515	1.98	257	99%
	サ ッ カ ー	12	12	24	930	747	0.80	800	86%
	ジ ョ ギ ン グ	2	2	4	120	60	0.50	67	56%
	ソ フ ト テ ニ ス	3	3	6	120	44	0.37	69	58%
	ソ フ ト ボ ー ル	8	8	16	480	540	1.12	489	102%
	ダ ン ス	4	4	8	160	201	1.26	164	103%
	テ ニ ス	14	14	28	620	889	1.43	623	100%
	ニ ュ ー ス ポ ー ツ	3	3	6	140	54	0.38	91	65%
	バスケットボール	15	15	30	1050	994	0.95	827	79%
	バドミントン	9	9	18	580	600	1.03	513	88%
	バレーボール	15	13	28	960	646	0.67	722	75%
	ハンドボール	2	2	4	100	53	0.53	56	56%
	フットサル	2	2	4	100	170	1.70	119	119%
	フライングディスク	1	1	2	40	17	0.42	21	53%
	ボクシング	1	1	2	60	69	1.15	63	105%
	ホ ッ ケ ー	1	1	2	100	19	0.19	18	18%
	剣 道	8	8	16	320	96	0.30	110	34%
	合 気 道	1	1	2	80	94	1.18	94	118%
	柔 道	3	3	6	180	64	0.36	62	34%
	水 泳	6	1	7	210	127	0.60	136	65%
	体力UPコース	8	10	18	420	292	0.70	302	72%
	卓 球	5	5	10	300	388	1.29	313	104%
	野 球	2	2	4	120	117	0.97	113	94%
	陸 上 競 技	2	2	4	120	39	0.32	50	42%
	日 吉 合 計	144	139	283	8200	7343	0.90	6566	80%
三 田 地 区 開 設	ダ ン ス	1	1	2	60	77	1.28	76	127%
	テ ニ ス	5	5	10	76	212	2.79	207	272%
	バレーボール	4	4	8	200	145	0.72	141	71%
	弓 術	2	2	4	80	129	1.61	78	98%
	剣 道	2	2	4	80	70	0.88	67	84%
	合 気 道	1	1	2	60	64	1.07	64	107%
	柔 道	2	2	4	120	57	0.47	59	49%
	三 田 合 計	17	17	34	676	754	1.12	692	102%
全	体 合 計	161	156	317	8876	8097	0.91	7258	82%

表 2-3 平成12年度 体育実技Ⅱ（シーズンスポーツクラス）担当者及び履修状況

	月	科 目 名	担 当 者	定 員	登録数	倍 率	許可数	履修者数	充 足 率
春 学 期	7 月	アメリカンタッチフットボール	綿引 賢	40	25	0.62	25	24	60%
		ウェイトリフティング	武井 澄男	10	8	0.80	8	8	80%
		空 手	蓮池 陽輔	50	22	0.44	22	25	50%
		弓 術	丸山祐一郎	40	78	1.95	43	42	105%
		サ ッ カ ー	小森 秀二	50	37	0.74	37	43	86%
		少 林 寺 拳 法	中島 正樹	20	19	0.95	19	19	95%
		水 泳	北村公光嗣	150	87	0.58	87	96	64%
		相 撲	三嶋 明	10	4	0.40	4	4	40%
		卓 球	古谷 修一	60	31	0.52	31	41	68%
		軟 式 野 球	小松 恭三	60	67	1.12	67	63	105%
		馬 術	横山 武次	40	71	1.77	40	43	108%
		バスケットボール	吉川 政宏	75	37	0.49	37	46	61%
		バドミントン	平井 克英	90	79	0.88	79	88	98%
		ホ ッ ケ ー	吉村 和純	40	6	0.15	6	8	20%
		ボ ク シ ン グ	砂押 雅夫	30	30	1.00	30	30	100%
		ヨ ッ ト	斎藤 渉	40	18	0.45	18	27	68%
秋 学 期	9 月	ア ー チ ャ リ ー	畠山 雅一	40	36	0.90	36	40	100%
		合 気 道	江口 久	40	29	0.72	29	30	75%
		アウトドアレクリエーション	吉田 泰将	50	67	1.34	50	55	110%
		器 械 体 操	宮崎 正巳	20	18	0.90	18	20	100%
		剣 道	清水 誠治	20	7	0.35	7	8	40%
		ゴ ル フ	村山 雅春	60	69	1.15	69	68	113%
		山 岳	岩永 治朗	50	27	0.54	27	29	58%
		新 体 操	宮崎 正巳	20	7	0.35	7	7	35%
		自 動 車	松山 保幸	70	44	0.63	44	47	67%
		柔 道	安藤 勝英	20	7	0.35	7	8	40%
		ソ フ ト テ ニ ス	梶川 則夫	100	25	0.25	25	27	27%
		端 艇	高橋 一米	30	12	0.40	12	14	47%
		テ ニ ス	堀場 雅彦	80	36	0.45	36	41	51%
		ハ ン ド ボ ー ル	上西 啓之	40	11	0.28	11	11	28%
		フ ェ ン シ ン グ	田中由美子	20	9	0.45	9	11	55%
		バ レ ー ボ ー ル	竹内 正和	80	22	0.28	22	24	30%
	ラ グ ビ ー	小野寺 孝	30	10	0.33	10	11	37%	
	陸 上 競 技	松田 雅之	30	23	0.77	23	24	80%	
	レ ス リ ン グ	増田 康二	15	11	0.73	11	11	73%	
	2月	ス キ ー	吉田 久男	200	107	0.54	107	113	57%
ス ケ ー ト		福水 田夫	50	19	0.38	19	22	44%	
				1870	1215	0.65	1132	1228	66%

(1) 体育実技

各種目担当者及び履修状況を表3-1に示す。

	種 目 名	定 員	履修者数	充足率	担 当 者
夏 期	剣 道	30	8	26.7%	植田史生
	柔 道	30	6	20.0%	安藤勝英
	ウォーキングエクササイズ	30	27	90.0%	近藤明彦
	レジャースポーツ	80	21	26.3%	野口和行
	バスケットボール	50	26	52.0%	加藤大仁
	バレーボール	50	17	34.0%	小林 徹
	ゴルフ	40	26	65.0%	村山雅春
	エアロビクス	60	42	70.0%	佐々木玲子
	ボールルームダンス	25	21	84.0%	篠原しげ子
	キャリセニックス	20	15	75.0%	今栄貞吉
	サッカー	30	17	56.7%	須田芳正
	水 泳	80	40	50.0%	高嶺隆二
バドミントン	30	16	53.3%	村松 憲	
ソフトボール	25	16	64.0%	綿田博人	
冬期	スキー	70	39	55.7%	水野英夫
	合 計	650	337	51.8%	

4名の教員によるオムニバス形式で、夏期スクーリング中に7回（1時限100分）行われた。各教員のテーマを表3-2に示す。

	担 当 者	テーマ
保 健 衛 生	斎藤 郁夫	高血圧
	河邊 博史	糖尿病
	和井内由充子	虚血性心疾患
	辻岡三南子	医学とスポーツ
	木村 慶子	親準備学
	南里清一郎	エイズ
体 育 理 論	今栄 貞吉	健康・体力へのアプローチ
	近藤 明彦	スポーツ・身体運動の科学的基礎
	安藤 勝英	スポーツと文化
	高嶺 隆二	体育・スポーツ活動中の事故と法的責任

また、今年度のレポートならびに試験問題の提出は、松田雅之、吉田泰将、村山光義の3名が担当した。

4. 平成12年度体育実技（スポーツクラス）履修者アンケート集計結果

体育研究所では、より適切な授業展開のための基礎的資料を得ることを目的に、体育実技を履修した学生による授業に対する評価（アンケート）を実施している。その結果を、ウィークリースポーツクラス（春・秋学期）、シーズンスポーツクラスに分けて示した。アンケートの回答数および各質問項目の具体的内容は、それぞれ表4-1、2に示したとおりである。

表4-1 アンケート回答者数

	アンケート総数
ウィークリー春学期	2421
ウィークリー秋学期	1757
シーズン	717

表4-2 アンケート項目

目 的	授業の目的・目標はよく理解できた
教授法	教員の教授方法は適切であった
知 識	教員はこの授業についての十分な知識を持っていた
興 味	授業の内容は興味のあるものであった
運動量	運動量は十分であった
準 備	教員の授業に対する準備は十分であった
対教員	授業において教員とのコミュニケーションはよく取れた
学生間	授業において学生間のコミュニケーションはよく取れた
意 欲	自分はこの授業に意欲的に取り組んだ
満 足	この授業は自分にとって満足できるものであった
推 薦	この授業を他の学生にも薦めたい
生 涯	この種目を生涯スポーツとして取り入れたい
施 設	利用施設は十分であった
用 具	用具は十分であった
* 費 用	実技費用はどうでしたか
* 集 合	集合方法はどうでしたか

*合宿種目のみ対象とする項目

アンケートの各質問項目に関しては、「強くそう思う」を5点、「そう思う」を4点、「どちらともいえない」を3点、「そう思わない」を2点、「まったくそう思わない」を1点として得点化することにより5段階評価をした。また、合宿種目については、「費用」と「集合場所」についても加えて尋ね、それぞれ、「安い」を3点、「普通」を2点、「高い」を1点、および、「良い」を3点、「普通」を2点、「悪い」を1点として得点化することにより、3段階評価をした。

図4-1は、ウィークリースポーツクラス（春・秋学期）、シーズンスポーツクラス各々における、各質問項目の全体の平均値と標準偏差を棒グラフに示したものである。

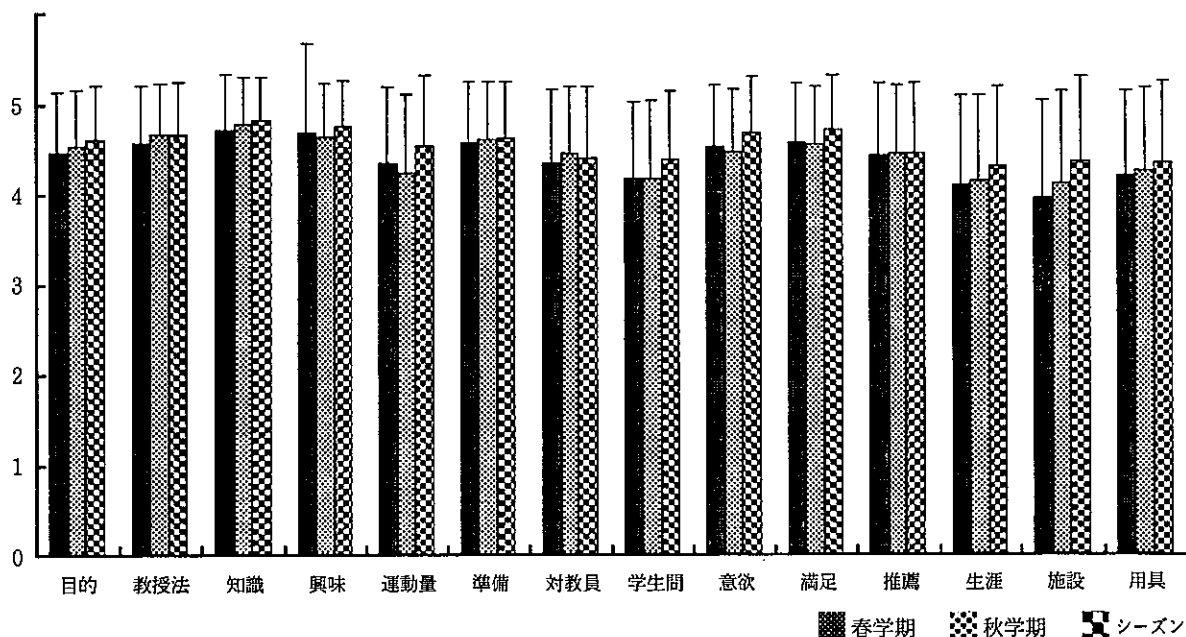


図 4-1 授業に関する質問項目別の 5 段階評価 (全体平均)

全般に 4 点以上の肯定的評価がほとんどであった。但し、授業中における学生間のコミュニケーションの実態、体育実技において設定した運動種目に対する生涯的な継続願望、そして、運動施設における不満（特にウィークリースポーツクラス）の得点が全体の中で、やや低く評価されていることが見受けられる。

合宿種目費用に関しては、スキーに関して特に合宿費用が高いと感じているようである。合宿種目の集合場所に関しては、スキーとアウトドアレクリエーションの集合場所にやや不満を感じているようである。上記のことは、今後、原因を追求しつつ、解決の手段を追求することが望ましいと思われる。(図 4-2)

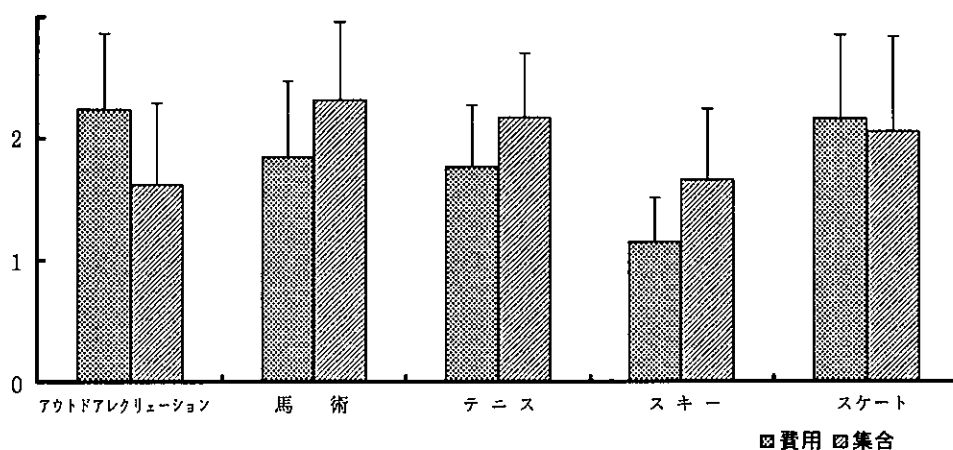


図 4-2 合宿種目における費用と集合場所の 3 段階評価

その他、ウィークリースポーツクラス（春・秋学期）、シーズンスポーツクラス各々について、種目別にみた 5 段階評価を表 4-3、4、5 に示した。

表4-3 5段階評価集計一覧（春学期ウィークリースポーツクラス）

種目名	n	目的	教授法	知識	興味	運動量	準備	対教員	学生間	意欲	満足	推薦	生涯	施設	用具
合気道	平均	4.72	4.78	4.96	4.86	4.20	4.82	4.84	4.46	4.64	4.78	4.72	3.88	4.16	4.38
	50 SD	0.57	0.46	0.20	0.40	0.76	0.44	0.37	0.65	0.56	0.55	0.67	1.02	0.91	0.83
ウォーキングエクササイズ	平均	4.50	4.69	4.69	4.54	4.35	4.62	4.46	4.15	4.46	4.58	4.35	4.27	3.96	3.96
	26 SD	0.51	0.47	0.84	0.58	0.85	0.57	0.65	0.92	0.71	0.70	0.89	0.67	1.18	1.22
エアロビクス	平均	4.63	4.83	4.80	4.76	4.62	4.81	4.58	4.04	4.55	4.73	4.67	4.16	4.34	4.38
	157 SD	0.56	0.41	0.50	0.50	0.63	0.53	0.65	0.97	0.68	0.50	0.64	0.85	0.80	0.84
剣道	平均	4.52	4.85	5.00	4.62	4.30	4.82	4.66	4.20	4.31	4.66	4.38	4.18	4.66	4.59
	61 SD	0.54	0.36	0.00	0.84	1.01	0.43	0.57	0.95	0.83	0.54	0.91	0.90	0.63	0.76
ゴルフ	平均	4.37	4.34	4.63	4.68	3.82	4.21	4.11	3.79	4.68	4.61	4.55	4.34	4.13	4.18
	38 SD	0.54	0.53	0.54	0.53	0.69	0.74	0.83	0.78	0.57	0.55	0.65	0.78	0.74	0.77
サッカー	平均	4.44	4.55	4.73	4.73	4.46	4.48	4.22	4.01	4.47	4.58	4.52	4.47	3.85	4.20
	226 SD	0.65	0.67	0.56	0.51	0.74	0.70	0.77	0.88	0.76	0.66	0.74	0.78	1.06	0.80
柔道	平均	4.78	4.81	4.94	4.86	4.81	4.83	4.92	4.50	4.56	4.75	4.33	4.39	4.69	4.67
	36 SD	0.42	0.40	0.23	0.35	0.52	0.38	0.28	0.65	0.65	0.44	0.93	0.77	0.62	0.59
ジョギング	平均	4.43	4.86	5.00	4.71	4.86	4.86	4.57	3.71	4.29	4.57	4.71	4.43	3.43	4.14
	7 SD	0.98	0.38	0.00	0.49	0.38	0.38	0.79	1.25	0.49	0.53	0.76	0.79	1.81	1.07
ソフトテニス	平均	4.14	4.29	4.50	4.36	4.39	4.54	4.54	4.21	4.29	4.54	4.11	3.82	4.43	4.68
	28 SD	0.65	0.60	0.64	0.56	0.50	0.58	0.51	0.57	0.60	0.64	0.74	0.77	0.79	0.48
ソフトボール	平均	4.32	4.44	4.57	4.87	4.22	4.48	4.22	4.27	4.48	4.54	4.40	3.82	3.91	3.91
	186 SD	0.74	0.73	0.71	2.95	0.88	0.71	0.87	0.85	0.79	0.76	0.80	1.04	0.98	1.08
体力UPコース	平均	4.75	4.81	4.85	4.70	4.22	4.75	4.58	3.93	4.39	4.66	4.57	4.06	4.28	4.32
	99 SD	0.46	0.42	0.44	0.50	0.71	0.50	0.61	0.85	0.73	0.56	0.66	0.79	0.83	0.82
卓球	平均	4.12	4.31	4.40	4.35	4.21	4.40	4.06	4.02	4.37	4.35	4.10	3.66	3.50	3.89
	103 SD	0.69	0.73	0.83	0.72	0.76	0.78	0.88	0.84	0.71	0.65	0.77	1.13	1.13	1.04
タッチフット	平均	5.00	4.88	5.00	4.88	5.00	5.00	5.00	5.00	4.88	5.00	5.00	4.75	4.75	4.88
	8 SD	0.00	0.35	0.00	0.35	0.00	0.00	0.00	0.00	0.35	0.00	0.00	0.46	0.46	0.35
ダンス	平均	4.51	4.48	4.68	4.53	4.00	4.64	4.02	4.16	4.44	4.48	4.30	3.80	3.93	3.63
	81 SD	0.61	0.63	0.77	0.65	0.88	0.51	0.77	0.75	0.81	0.69	0.84	1.04	1.12	1.54
テニス	平均	4.51	4.66	4.82	4.69	4.23	4.58	4.43	4.23	4.53	4.63	4.57	4.58	3.74	4.11
	227 SD	0.68	0.60	0.57	0.61	0.89	0.68	0.77	0.85	0.82	0.63	0.73	0.76	1.13	1.03
野球	平均	4.38	4.43	4.67	4.81	4.29	4.57	4.05	4.19	4.76	4.67	4.48	4.57	4.90	4.90
	21 SD	0.59	0.51	0.58	0.40	0.72	0.60	0.80	0.75	0.54	0.58	0.68	0.60	0.30	0.30
ニュースポーツ	平均	4.45	4.58	4.58	4.53	3.87	4.50	4.66	4.47	4.34	4.42	4.47	3.42	3.82	4.39
	38 SD	0.65	0.60	0.55	0.65	1.07	0.80	0.63	0.83	0.94	0.76	0.76	1.33	0.95	0.68
バスケットボール	平均	4.53	4.67	4.77	4.74	4.49	4.59	4.26	4.26	4.61	4.58	4.37	4.03	3.89	4.23
	300 SD	0.68	0.59	0.58	0.52	0.92	0.65	0.88	0.88	0.67	0.73	0.87	1.11	1.23	1.10
バドミントン	平均	4.43	4.39	4.69	4.55	4.54	4.63	4.19	4.22	4.47	4.50	4.38	3.90	4.13	4.26
	206 SD	0.66	0.76	0.76	0.69	0.72	0.65	0.93	0.87	0.74	0.65	0.83	0.95	0.93	0.86
バレーボール	平均	4.27	4.34	4.38	4.59	4.19	4.31	4.28	4.18	4.50	4.46	4.33	3.81	3.53	3.90
	334 SD	0.78	0.77	0.83	0.66	0.91	0.80	0.84	0.91	0.67	0.75	0.85	1.09	1.14	1.05
ハンドボール	平均	4.58	4.69	4.92	4.69	4.69	4.58	4.42	3.77	4.65	4.54	4.35	4.00	4.58	4.69
	26 SD	0.64	0.55	0.27	0.62	0.68	0.58	0.81	1.03	0.63	0.71	0.98	0.98	0.64	0.62
フットサル	平均	4.57	4.67	4.90	4.70	4.63	4.50	3.87	3.77	4.57	4.60	4.30	3.93	3.80	4.17
	30 SD	0.50	0.48	0.31	0.47	0.61	0.63	0.94	0.94	0.63	0.50	1.06	1.05	1.13	0.91
フライングディスク	平均	4.73	4.64	4.27	4.27	3.91	4.82	4.18	3.36	4.45	4.45	4.00	3.91	4.09	4.64
	11 SD	0.47	0.50	1.62	0.65	0.94	0.40	0.75	0.92	0.52	0.69	0.77	0.83	0.70	0.67
ボクシング	平均	4.43	4.71	4.95	4.81	4.48	4.62	4.48	3.86	4.19	4.48	4.24	3.86	3.90	4.00
	21 SD	0.75	0.46	0.22	0.40	0.75	0.59	0.75	1.20	1.21	0.75	0.89	0.96	1.09	1.00
陸上競技	平均	4.46	4.54	4.92	4.31	4.23	4.23	4.46	4.15	4.31	4.15	3.62	3.23	4.15	4.38
	13 SD	0.52	0.66	0.28	0.85	1.17	1.36	0.66	0.99	0.85	0.90	0.96	1.09	0.80	0.65
水泳	平均	4.66	4.82	4.93	4.79	4.33	4.74	4.53	4.00	4.65	4.66	4.38	4.61	4.18	4.30
	76 SD	0.62	0.39	0.34	0.44	0.94	0.50	0.74	0.95	0.58	0.64	0.83	0.59	1.09	0.88
弓術（三田）	平均	4.92	4.92	4.75	5.00	3.58	5.00	4.75	3.83	4.92	4.92	4.75	4.67	4.75	3.92
	12 SD	0.29	0.29	0.87	0.00	1.00	0.00	0.62	1.11	0.29	0.29	0.62	0.78	0.62	1.00

表4-4 5段階評価集計一覧（秋学期ウィークリースポーツクラス）

種目名	n	目的	教授法	知識	興味	運動量	準備	対教員	学生間	意欲	満足	推薦	生涯	施設	用具
合気道	平均	4.53	4.75	4.89	4.64	3.78	4.64	4.50	4.25	4.33	4.50	4.42	3.69	4.06	4.30
	36 SD	0.61	0.55	0.52	0.64	0.90	0.54	0.88	0.77	0.72	0.65	0.81	0.82	1.07	0.92
アメリカンタッチフット	平均	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.38	4.50
	8 SD	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.92	0.76
ウォーキングエクササイズ	平均	4.67	4.94	4.94	4.61	4.50	4.89	4.67	4.17	4.56	4.78	4.56	4.50	4.56	4.44
	18 SD	0.49	0.24	0.24	0.61	0.62	0.32	0.49	1.04	0.62	0.55	0.78	0.51	0.70	0.78
エアロビクス	平均	4.64	4.89	4.85	4.73	4.50	4.88	4.57	3.86	4.63	4.74	4.75	4.07	4.57	4.54
	139 SD	0.58	0.31	0.52	0.48	0.66	0.35	0.64	0.98	0.58	0.52	0.48	0.88	0.64	0.68
弓術	平均	4.64	4.79	5.00	4.86	3.64	4.64	4.57	4.00	4.50	4.64	4.57	4.50	4.71	4.64
	14 SD	0.50	0.43	0.00	0.36	1.22	0.63	0.76	1.04	0.65	0.63	0.65	0.76	0.61	0.63
剣道	平均	4.65	4.90	4.92	4.76	4.18	4.84	4.78	4.35	4.45	4.57	4.49	4.24	4.63	4.69
	49 SD	0.52	0.31	0.45	0.52	0.83	0.43	0.42	0.80	0.74	0.58	0.71	0.92	0.76	0.71
サッカー	平均	4.64	4.70	4.75	4.72	4.54	4.51	4.36	4.05	4.40	4.58	4.58	4.55	3.99	4.20
	168 SD	0.63	0.51	0.47	0.49	0.68	0.67	0.82	0.94	0.78	0.64	0.62	0.77	0.98	0.84
柔道	平均	4.70	4.90	4.97	4.93	4.67	4.87	4.87	4.73	4.73	4.80	4.53	4.57	4.73	4.73
	30 SD	0.53	0.31	0.18	0.25	0.61	0.35	0.35	0.52	0.52	0.48	0.97	0.68	0.58	0.58
ジョギング	平均	4.59	4.59	4.77	4.36	4.27	4.55	4.41	3.86	4.18	4.09	3.95	3.91	4.14	4.24
	22 SD	0.50	0.67	0.43	0.66	0.98	0.51	0.67	0.94	0.66	0.92	0.84	0.92	0.77	0.89
水泳	平均	4.56	4.88	5.00	4.78	4.33	4.78	4.78	4.11	4.33	4.33	4.00	4.44	4.56	4.56
	9 SD	0.53	0.35	0.00	0.44	1.00	0.44	0.44	0.93	1.00	0.71	0.71	0.73	0.53	0.53
ソフトテニス	平均	4.39	4.61	4.78	4.65	4.39	4.74	4.78	4.30	4.57	4.52	4.39	4.35	4.43	4.52
	23 SD	0.72	0.50	0.42	0.49	0.84	0.45	0.42	0.93	0.66	0.59	0.84	0.78	0.84	0.79
ソフトボール	平均	4.40	4.54	4.62	4.64	4.01	4.51	4.43	4.20	4.46	4.51	4.48	3.96	4.01	4.05
	149 SD	0.73	0.61	0.61	0.61	0.93	0.72	0.71	0.81	0.77	0.70	0.74	0.98	1.01	1.08
体力アップコース	平均	4.72	4.76	4.82	4.56	4.14	4.66	4.57	3.84	4.30	4.51	4.35	4.05	4.40	4.37
	97 SD	0.49	0.47	0.46	0.56	0.78	0.58	0.61	0.93	0.71	0.66	0.80	0.86	0.80	0.77
卓球	平均	4.46	4.46	4.54	4.54	3.62	4.46	4.19	4.08	4.68	4.38	4.12	4.00	4.08	4.15
	26 SD	0.65	0.65	0.76	0.58	0.94	0.76	0.90	1.00	0.56	0.70	0.86	1.02	0.84	0.78
テニス	平均	4.52	4.71	4.82	4.70	4.00	4.56	4.54	4.34	4.46	4.54	4.53	4.60	3.91	4.26
	208 SD	0.56	0.51	0.44	0.53	0.94	0.62	0.60	0.77	0.67	0.64	0.71	0.66	1.07	0.84
ニュースポーツ	平均	4.30	4.40	4.90	4.50	3.90	4.40	4.70	4.50	4.30	4.60	4.60	4.30	4.40	4.70
	10 SD	0.82	0.70	0.32	0.53	1.10	0.52	0.48	0.71	0.48	0.52	0.52	0.48	0.70	0.48
バスケットボール	平均	4.49	4.56	4.75	4.64	4.57	4.56	4.27	4.15	4.53	4.53	4.35	4.12	3.94	4.14
	230 SD	0.62	0.64	0.49	0.58	0.68	0.66	0.86	0.86	0.65	0.70	0.81	1.00	1.26	1.10
バドミントン	平均	4.39	4.57	4.89	4.59	4.24	4.65	4.37	4.17	4.44	4.53	4.40	3.93	4.21	4.39
	153 SD	0.66	0.56	0.36	0.57	0.73	0.68	0.83	0.85	0.64	0.57	0.68	0.94	0.87	0.79
バレーボール	平均	4.44	4.52	4.62	4.63	4.01	4.52	4.47	4.25	4.46	4.55	4.47	3.90	3.76	3.99
	211 SD	0.64	0.64	0.65	0.61	0.98	0.66	0.76	0.80	0.71	0.63	0.69	1.06	1.18	1.02
ハンドボール	平均	4.68	4.77	4.91	4.64	4.73	4.73	4.50	4.05	4.50	4.59	4.50	4.27	4.68	4.45
	22 SD	0.57	0.43	0.29	0.66	0.55	0.63	0.86	1.05	0.74	0.67	0.91	1.08	0.57	0.91
フットサル	平均	4.52	4.52	4.72	4.68	3.84	4.24	4.00	3.50	4.28	4.48	4.36	3.92	3.72	3.96
	25 SD	0.51	0.51	0.74	0.56	1.07	0.72	0.65	1.02	0.84	0.71	0.81	0.95	1.14	0.98
フライングディスク	平均	4.24	4.00	4.67	3.86	3.81	4.57	3.67	4.10	4.10	3.90	3.81	3.05	3.81	4.24
	21 SD	0.70	1.00	0.58	0.96	0.93	0.60	0.86	0.89	0.77	0.94	1.03	1.12	0.87	0.94
ボクシング	平均	4.47	4.53	4.47	4.64	4.20	4.27	4.33	4.07	4.47	4.40	4.21	3.67	3.80	3.80
	15 SD	0.52	0.64	0.83	0.50	0.77	0.88	0.82	0.59	0.64	0.63	0.70	0.98	0.77	0.77
ダンス	平均	4.56	4.67	4.85	4.57	4.03	4.66	4.33	4.28	4.36	4.46	4.28	3.95	4.16	4.12
	61 SD	0.53	0.47	0.44	0.56	0.86	0.51	0.63	0.78	0.61	0.56	0.82	0.85	0.84	0.83
陸上競技	平均	4.31	4.54	4.85	4.46	3.92	4.42	4.38	4.15	4.46	4.00	3.69	2.77	3.92	4.08
	13 SD	0.75	0.78	0.38	0.66	1.12	0.90	0.77	0.99	0.52	0.74	0.75	0.93	0.76	0.76

表4-5 5段階評価集計一覧（シーズンスポーツクラス）

種目名	n	目的	教授法	知識	興味	運動量	準備	対教員	学生間	意欲	満足	推薦	生涯	施設	用具	費用	集合
柔道	平均	5.00	4.88	4.88	4.75	4.88	4.88	4.75	4.63	4.88	4.88	4.50	4.75	4.88	4.86		
	8 SD	0.00	0.35	0.35	0.46	0.35	0.35	0.46	0.74	0.35	0.35	0.93	0.71	0.35	0.38		
剣道	平均	4.60	5.00	4.80	5.00	4.80	4.80	4.60	4.20	4.20	4.80	4.20	4.80	4.80	5.00		
	5 SD	0.55	0.00	0.45	0.00	0.45	0.45	0.55	0.45	0.45	0.45	0.84	0.45	0.45	0.00		
スケート	平均	4.84	4.89	4.89	5.00	4.79	4.79	4.89	4.95	4.84	4.89	4.79	4.16	4.68	4.53	2.16	2.05
	19 SD	0.37	0.32	0.32	0.00	0.54	0.42	0.32	0.23	0.37	0.32	0.54	1.07	0.48	0.70	0.69	0.78
アウトドアレクリエーション	平均	4.62	4.86	4.76	4.90	4.05	4.81	4.71	4.57	4.81	4.95	4.71	4.10	4.52	4.57	2.24	1.62
	21 SD	0.59	0.36	0.62	0.30	1.12	0.40	0.46	0.68	0.40	0.22	0.56	0.83	0.60	0.51	0.62	0.67
ホッケー	平均	4.00	4.20	4.60	4.00	4.20	4.40	4.00	3.60	4.40	4.40	4.20	4.00	5.00	5.00		
	5 SD	0.00	0.45	0.55	1.00	0.84	0.55	1.00	0.55	0.89	0.55	1.10	1.00	0.00	0.00		
ボクシング	平均	4.55	4.73	4.82	4.82	4.64	4.73	4.64	4.00	4.36	4.82	4.27	3.36	4.27	4.36		
	11 SD	0.69	0.47	0.40	0.60	0.92	0.47	0.50	0.77	0.92	0.60	1.01	1.21	0.90	0.67		
水泳	平均	4.72	4.89	4.95	4.81	4.60	4.70	4.72	4.32	4.70	4.82	4.61	4.54	4.46	4.49		
	57 SD	0.53	0.36	0.23	0.48	0.78	0.63	0.56	0.85	0.63	0.54	0.68	0.80	0.80	0.78		
サッカー	平均	4.50	4.47	4.67	4.60	4.43	4.43	4.10	3.93	4.50	4.50	4.50	4.40	4.13	4.13		
	30 SD	0.63	0.57	0.55	0.56	0.82	0.57	0.80	0.83	0.63	0.63	0.78	0.72	0.94	0.94		
バトミントン	平均	4.63	4.57	4.80	4.61	4.64	4.64	4.04	4.34	4.57	4.62	4.50	4.07	3.95	4.39		
	56 SD	0.65	0.66	0.52	0.56	0.55	0.52	0.85	0.79	0.83	0.56	0.66	0.71	1.07	0.85		
バスケットボール	平均	4.71	4.73	4.94	4.90	4.83	4.83	4.44	4.52	4.83	4.79	4.63	4.58	4.54	4.63		
	52 SD	0.54	0.49	0.24	0.30	0.51	0.62	0.89	0.73	0.38	0.46	0.63	0.80	0.83	0.77		
馬術	平均	4.48	4.61	4.82	4.91	3.97	4.48	4.36	4.52	4.82	4.79	4.64	4.03	4.82	3.82	1.84	2.31
	33 SD	0.57	0.56	0.39	0.38	0.95	0.71	0.74	0.67	0.39	0.48	0.60	1.05	0.39	1.29	0.63	0.64
スキー	平均	4.50	4.50	4.76	4.65	4.52	4.48	4.26	4.53	4.63	4.53	4.03	4.33	4.16	4.02	1.15	1.66
	94 SD	0.67	0.71	0.62	0.58	0.76	0.70	0.88	0.58	0.66	0.80	0.93	0.90	1.09	0.98	0.36	0.58
バレーボール	平均	4.57	4.71	4.50	4.57	3.86	4.57	4.86	4.71	5.00	5.00	4.43	4.43	3.57	4.14		
	7 SD	0.79	0.49	0.84	0.53	1.21	0.79	0.38	0.49	0.00	0.00	0.79	0.79	1.62	1.07		
テニス	平均	4.53	4.63	4.77	4.67	4.77	4.53	4.27	3.60	4.67	4.70	4.43	4.40	4.57	4.63	1.77	2.17
	30 SD	0.57	0.56	0.50	0.55	0.50	0.57	0.69	0.81	0.55	0.65	0.73	0.77	0.73	0.61	0.50	0.53
ソフトテニス	平均	4.46	4.33	4.67	4.46	4.42	4.58	4.33	4.29	4.63	4.46	4.38	4.33	4.54	4.63		
	24 SD	0.72	0.87	0.56	0.78	0.78	0.65	0.82	0.91	0.65	0.78	0.88	0.87	0.83	0.65		
合気道	平均	4.89	4.89	4.67	4.94	4.22	4.72	4.72	4.50	4.78	4.83	4.50	3.83	3.89	4.50		
	18 SD	0.32	0.32	0.97	0.24	0.81	0.46	0.57	0.86	0.55	0.38	0.86	1.20	1.53	0.99		
自動車	平均	4.48	4.59	4.72	4.69	3.86	4.45	4.48	4.31	4.55	4.31	4.21	3.69	3.66	3.59		
	29 SD	0.63	0.63	0.53	0.47	0.92	0.69	0.63	0.81	0.83	0.89	0.94	1.07	1.26	1.35		
アメリカンフットボール	平均	4.50	4.55	4.40	4.50	4.45	4.50	4.05	3.90	4.55	4.35	4.65	3.15	4.10	4.30		
	20 SD	0.61	0.69	0.88	0.76	0.83	0.69	0.94	1.12	0.69	0.93	0.67	1.42	1.07	0.98		
軟式野球	平均	4.46	4.62	4.78	4.57	4.00	4.59	4.27	4.14	4.67	4.68	4.62	4.59	4.59	4.65		
	37 SD	0.56	0.55	0.42	0.60	0.97	0.50	0.69	0.67	0.48	0.58	0.59	0.60	0.72	0.59		
ゴルフ	平均	4.05	3.52	4.09	3.73	3.52	3.66	3.20	3.57	4.20	3.89	3.86	4.32	3.36	3.48		
	44 SD	0.86	1.07	0.96	1.04	1.13	0.99	1.23	1.09	0.95	1.22	1.13	0.86	1.26	1.15		
ハンドボール	平均	4.00	4.60	5.00	4.00	4.60	4.20	3.80	3.40	4.20	4.00	3.40	2.20	3.80	4.20		
	5 SD	0.71	0.55	0.00	0.71	0.89	0.84	0.84	1.14	0.84	1.00	0.55	0.84	0.84	0.45		
フェンシング	平均	4.80	5.00	5.00	4.80	5.00	4.60	4.80	4.80	5.00	5.00	4.00	3.60	3.60	3.00		
	5 SD	0.45	0.00	0.00	0.45	0.00	0.89	0.45	0.45	0.00	0.00	1.73	0.89	1.52	1.22		
レスリング	平均	4.60	4.80	4.20	4.80	4.60	4.60	4.40	3.60	4.00	4.80	4.60	2.80	4.80	4.80		
	5 SD	0.55	0.45	1.30	0.45	0.55	0.55	0.55	1.34	0.71	0.45	0.55	0.84	0.45	0.45		
アーチェリー	平均	3.71	4.00	4.47	4.41	3.41	4.00	4.12	4.29	4.47	4.29	4.29	3.35	4.29	4.29		
	17 SD	0.85	1.00	0.62	0.80	1.33	0.71	0.93	0.85	0.72	0.77	0.77	1.11	0.77	0.77		
ウェイトリフティング	平均	5.00	5.00	4.75	5.00	5.00	5.00	5.00	4.67	5.00	4.75	4.75	4.25	5.00	5.00		
	4 SD	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.58	0.00	0.50	0.50	0.96	0.00	0.00		
相撲	平均	4.50	4.50	4.50	4.50	4.00	4.50	4.50	3.50	4.50	4.50	4.00	2.50	4.00	4.00		
	2 SD	0.71	0.71	0.71	0.71	0.00	0.71	0.71	0.71	0.71	0.71	0.00	0.71	0.00	0.00		
空手	平均	4.88	4.88	4.88	4.88	5.00	5.00	4.75	4.63	4.75	4.88	4.88	4.00	4.75	4.88		
	8 SD	0.35	0.35	0.35	0.35	0.00	0.00	0.46	0.74	0.46	0.35	0.35	0.76	0.46	0.35		
卓球	平均	4.43	4.07	4.64	4.18	4.32	4.21	3.61	4.00	4.32	4.32	3.71	3.89	3.39	4.21		
	28 SD	0.79	1.09	0.56	0.90	0.98	0.92	0.99	0.98	0.94	0.94	1.15	1.03	1.42	0.96		
少林寺拳法	平均	4.33	4.75	4.92	4.75	4.67	4.58	4.50	4.67	4.67	4.67	4.00	3.42	4.08	4.50		
	12 SD	0.65	0.45	0.29	0.45	0.49	0.67	0.80	0.49	0.49	0.49	1.04	0.79	0.90	0.67		
弓術	平均	4.38	4.84	4.88	4.88	3.81	4.63	4.69	4.65	4.56	4.63	4.56	4.09	4.41	4.41		
	32 SD	0.61	0.37	0.34	0.34	0.90	0.55	0.47	0.49	0.56	0.55	0.62	0.86	0.61	0.71		

本アンケートでは、質問項目による段階評価以外にも、自由記述方式で授業全般、履修手続き、授業の環境（運動施設および用具）等の回答を求めた。ここから得られた意見については、各種目別において様々な意見があったが、全般に共通した主な内容を略記する。

授業全般について

楽しかった。授業内容が良かった。また、履修したい。専門的な運動・スポーツに関する知識が向上した。自己の体力の現状を知ることができた。体力アップに役立った。休講や施設変更の連絡方法に関する不満。等

履修手続きについて

秋学期にも追加履修手続きがあればいい。卒業認定単位の増加希望。三田の科目（種目）の増設。

施設について

グラウンドの整備を望む（陸上競技場の芝、屋外のバレーボールコート）。更衣室の美化。個人ロッカーの設置の希望。施設が遠いので、シャトルバス等の配慮がほしい（下田地区）。空調・換気施設が欲しい（卓球場、記念館）。授業以外の運動施設の自由開放（プール、トレーニングルーム、記念館）。休暇中の運動施設開放。三田の運動施設の開発。等

用具について

壊れている。古い。足りない。

その他

合宿種目の集合場所までの交通機関を大学で用意して欲しい。
人気種目のコマを増やすことによって抽選を緩和して欲しい。

まとめ

履修者の身体活動に関する欲求はかなりのものであり、体育実技の授業そのものには満足しているようである。しかし、履修者は、さらなる学習環境の充実（運動施設と用具の整備、授業外や休暇中に運動施設を開放する欲求、授業数の増設）を要望しているので、体育研究所はこれらの要望に添えるように今後努力が必要となる。

第3部 スポーツ振興分野

概 要

塾生が過ごす望ましいキャンパスとは如何にあるべきか。地域・社会に貢献できるキャンパスとはどのようなものであるか。

体育研究所のスポーツ振興委員会では、このことを常に念頭に置きながら、様々な形のスポーツ振興活動を実践している。

各種スポーツ大会の開催、シンポジウム・公開講座の開設、フィットネスプログラムの実施、スポーツ施設の開放等である。

この章でそれらの詳細を紹介する。

1. 塾生対象のスポーツ大会

1) Keio Ball-Games Festa 2000

平成12年4月6日～14日、そして22日の延べ7日間にわたり、日吉陸上競技場において、『Keio Ball-Games Festa 2000』を開催した。

このイベントの目的は、ボールゲームの楽しさの普及と、新入生を迎えたキャンパス内におけるコミュニケーションの場の提供にある。

このイベントに参加した皆さんがボールゲームや他のスポーツをエンジョイする機会を生活の中に取り入れることは、素晴らしいことであると私達は考えている。サークルや体育会、また地域のクラブなど様々なかたちでスポーツライフを楽しんでもらいたいと思う。

開催日	時 間	種 目	内 容	参加者数(名)
4／6 木	14：00－15：30	アメリカンフットボール	観 戦	50
／10 月	12：00－13：30	フィールドホッケー（女子）	体 験	20（天候不良）
	11：30－14：00	フットサル・フィールドバレーボール・フライングディスク	ゲ ーム	
／11 火	12：00－13：30	アメリカンフットボール	体 験	30
	11：30－14：00	フットサル・フィールドバレーボール・フライングディスク	ゲ ーム	
／12 水	12：00－13：30	ラクロス（男子）	観戦＆体験	120
	11：30－14：00	フットサル・フィールドバレーボール・フライングディスク	ゲ ーム	
／13 木	12：00－13：30	ラクロス（女子）	観戦＆体験	50
	11：30－14：00	フットサル・フィールドバレーボール・フライングディスク	ゲ ーム	
／14 金	12：00－13：30	アルティメット	観戦＆体験	60
	11：30－14：00	フットサル・フィールドバレーボール・フライングディスク	ゲ ーム	
／22 土	12：00－13：00	アルティメット	観 戦	300
	10：00－12：00	アルティメット・タッチフットボール・フットサル・フィールドバレーボール・フィールドホッケー・ラクロス	体験＆ゲ ーム	
	13：00－15：00			
				合計 630

協力者及び団体：早川他（日本ラクロス協会）／西田・佐藤他（体育会アメリカンフットボール部）／岩村他（男子ラクロス部）／前野他（女子ラクロス部）／山村他（独立団体ホワイトホーンズ）／高木他（体育会ホッケー部）／鈴木・加藤他（文連放送研究会）



2) 塾長杯フットサル大会 (春)

日 時：平成 12 年 6 月 10 日 (土)

会 場：日吉記念館

開催時間：11：15～20：10 (開会宣言～閉会宣言、集合写真)

参加チーム数：33 チーム

参加者数：約 400 名 (選手 334 名、観客約 70 名)

ゲーム数：全 68 ゲーム (1 ゲーム 15 分)

1 チームのゲーム数：最低 3 ゲーム、最高 7 ゲーム

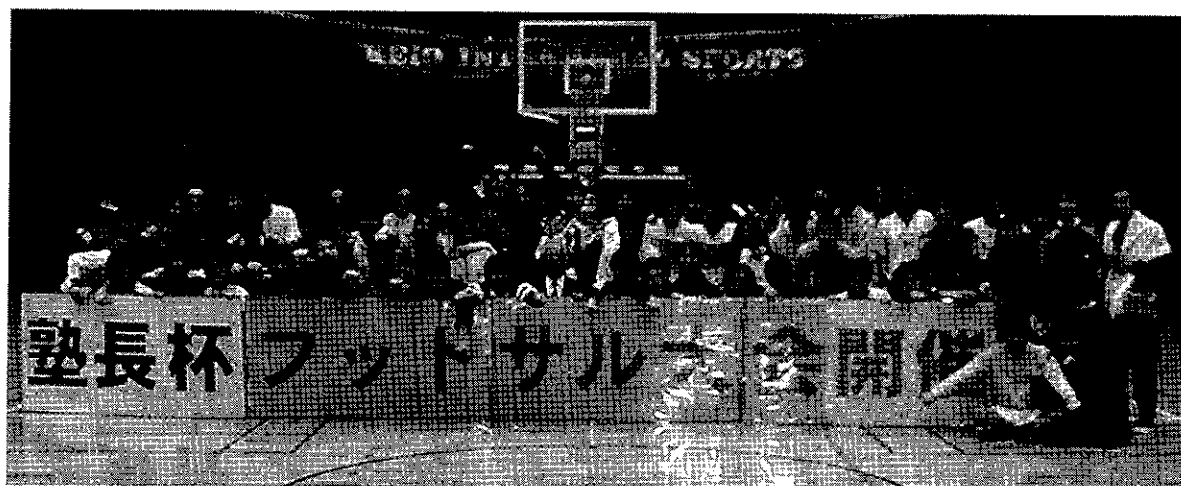
協力団体：独立団体チア & ソングリーダーズユニコーンズ

優勝チーム：修羅軍、代表者：新田智昭君 (理工 3)

梅雨入り直後の大会であったが、なんとか天候にも恵まれ多くの塾生が集まった。参加チームには慶應義塾高等学校の生徒チーム (3 チーム)、日吉・三田・信濃町の職員チーム (1 チーム) の参加もあった。また競技と並行して会場外で実施した「キックスピードコンテスト」には選手以外にも応援に訪れた塾生を含めて 140 名の参加があった。

9 時間に及ぶ大会を通して、鈴木芳彦君 (商 2)、加藤正剛君 (理工 2) の協力による実況放送があり、途中、榮隆男氏 (日本サッカー協会特任理事・日本サッカー協会フットサル委員長) の解説を交えることもできた。そして、チア & ソングリーダーズユニコーンズ (代表者：阿曾陽子君 (政 3)) の華やかな演技が決勝トーナメントに花を添えてくれた。

閉会式ならびに表彰式には湯川武常任理事に出席して頂き幕を閉じることができた。



3) 塾長杯フットサル大会 (秋)

日 程：平成 12 年 11 月 11 日 (土)

会 場：日吉記念館

開催時間：11：00～18：30 (開会宣言～閉会宣言・集合写真)

参加チーム数：36 チーム

参加者数：約 425 名 (選手 355 名、観客約 70 名)

ゲーム数：全 52 ゲーム (1 ゲーム、15 分間)

1 チームのゲーム数：最低 2 ゲーム、最高 6 ゲーム

協力：大塚製薬株式会社、ミズノ株式会社、慶應フットサルクラブ

優勝：慶應フットサルクラブ（代表；前川貴也（経4））

準優勝：アルトピアズ（代表；木村嘉彦（法2））

第3位：Team FW（代表；臼杵果維（商1））

今回の参加は、高校生2チーム（慶應義塾高等学校）、日吉・信濃町の教職員1チームを含め、計36チームの参加となった。須田芳正君（体育研究所助手・フットサル日本代表）は、「ゲームの内容がハイレベルで、春の大会よりもレベルアップした」とコメントし、レベルの高いチームがこのように多く集まったことに感動していた。

また、フットサル競技とは別に行なった「キックターゲット」（的を狙ってキックするゲーム）にも多くの塾生が参加し盛り上がった。大会を通して、原貴恵君（文1）が実況を担当し、終盤は、鈴木芳彦君（商2）、上田崇博君（商2）、國廣淨晃君（法3）が、放送研究会の先輩として応援に駆けつけ、楽しいトークとなった。

閉会式ならびに表彰式では、後半から大会を観戦しておられた湯川武常任理事よりご挨拶と塾長杯のトロフィー等が手渡された。



4) 塾長杯バレーボール大会（春）

日程：平成12年6月24日（土）

会場：日吉記念館

開催時間：11：00～19：00（開会宣言～閉会宣言、集合写真）

参加チーム数：60チーム（当日棄権の3チームを除く）

《最強グループ14、一般Aグループ22、一般Bグループ24》

参加者数：約900名（選手545名、観客約350名）

ゲーム数：全57ゲーム

1チームのゲーム数：最低1ゲーム、最高5ゲーム

協力団体：独立団体チア & ソングリーダーズユニコーンズ、体育会バレーボール部

表彰チーム：最強グループ 優勝 ほらねーズ（奥俊介君、理工3）
 準優勝 真ッ裸我リヤ（野田正興君、政2）
 一般Aグループ 優勝 ラ・オカピ（青木純子君、理工2）
 準優勝 湘南連合（佐藤瑠美君、法2）
 一般Bグループ 優勝 バレーボーラーズ2000（源堅一郎君、経3）
 準優勝 team丸（梶淵孝雄、法1）

（ ）内は代表者

当日は参加選手のほか、各チーム応援の塾生が多数日吉記念館に集まり、非常に盛り上がった大会となった。フットサル大会に比べ女子学生の数も圧倒的に多く、日吉・三田・矢上・信濃町・湘南藤沢の全キャンパスから、また一年生から大学院生までの幅広い参加者となった。

競技は最強グループ、一般グループA（女子・混合）、一般グループB（男子・混合）の3グループに分かれ、それぞれトーナメント戦を行った。0点で敗れても笑いのでるユニークなゲームや、強打の打ち合いとなるレベルの高いゲームなど参加者それぞれが楽しんだ。

ゲームの合間には、チア&ソングリーダーズユニコーンズの華麗な演技と応援や自由参加の的当てサブゲームも行なわれた。

KEIO Ball-Games Festa 2000・フットサル大会同様、鈴木芳彦君（商2）、加藤正剛君（理工2）の協力による実況放送が大会をより楽しいものにした。



5) 塾長杯バレーボール大会（秋）

日 程：平成12年10月28日（土）

会 場：日吉記念館

開催時間：10：00～18：15

応募チーム数：52（最強グループ15、一般グループ37）

参加チーム数：抽選により28（最強グループ8、一般グループ20）

参加者数：約400名（選手258名、観客約150名）

ゲーム数：43ゲーム

1チームのゲーム数：最低2ゲーム、最高5ゲーム

協力団体：体育会バレーボール部

表彰チーム：最強グループ 優勝 ほらねーズ（奥俊介君、理工3）

2連覇

準優勝 タグちゃんマン（田口光君、法4）

3 位 真ッ裸我リヤ（野田正興君、法2）

一般グループ 優勝 トラブルメーカーズ（源堅一郎君、経3）

準優勝 く組（安井智玄君、経2）

3 位 赤ジャージSE（米倉拓君、法4）

（ ）内は代表者

優勝のかかった早慶野球戦と日程が重なった今大会は、その最後に、鳥居塾長が神宮球場より駆けつけ、決勝戦、表彰式、懇親会をきっちりと終了することができた。

競技は最強グループ（8チーム）と一般グループ（20チーム）にわかれ、予選と決勝トーナメント戦を行い、春の大会ではできなかった敗者復活戦も取り入れ、すべての参加チームが満足のいく大会となった。

大会中、大塚製薬(株)の協力を得て、スポーツドリンクの無料サービスも行なわれ、ゲームの合間に実施した自由参加の的当てサーブゲームも先着50名の塾生で楽しんだ。そして、國廣淨晃君（法3）の力強い実況放送が大会に活気をつけた。

今回の大会には、52チーム、約600名の参加申込があったが、大会時間の関係で出場チームを抽選するという方法を取ったため、楽しみにしていた本大会に参加できない多くの塾生がいた。

次回からは、このような塾生のスポーツ意欲をより大切に考え、大会の企画をしていきたいと考えている。



6) 第29回塾長杯・体育会理事杯争奪蜷谷クロスカントリー大会

主 催：慶應義塾体育会

協 力：体育研究所

日 時：平成12年12月2日（土） 14：00 スタート

場 所：日吉陸上競技場及びその周辺

参加者数：約300名

快晴の下、無事に開催することができた。体育研究所スポーツ振興委員会では昨年同様、事前の広報活動及び日吉キャンパスにおける参加受付を行なった。また当日は、大塚製薬(株)よりスポーツ飲料水(エネルゲン)の提供を受け、参加者の給水に役立てた。今後、体育会以外の塾生の参加を促す大会運営の工夫が必要とされる。

2. 公開講座

1) 中高年のための水泳教室

担 当 者：○高嶺隆二(体育研究所)、北村公光嗣、ドートレー・昌子(塾員)

日 程：平成12年7月20日(木)、22日(土)、23日(日)、29日(土)、30日(日)
10:00～11:30 全5回

場 所：日吉プール

参加者数：34名

受講料：5,000円

昨年度の第1回の参加者は24名であったものが、本年度は34名に増えて賑やかなものとなった。このこと事態は主催者として喜ばしいことである。一方で、如何にして受講者に達成感を持たせるかということに苦慮した。

後日、多くの礼状を頂いた。皆一様に「おかげで少しは泳げるようになりました。これからも楽しみながら水泳を続けようと思います。」と記しているが、心苦しい思いが頭をよぎる人もいたことも事実で、指導担当者として責任の重さを痛感させられる。

指導内容のさらなる充実を図り、この講座を通じて地域社会への貢献に努力することを肝に銘じたい。

2) 中高年のためのトレーニング教室

担 当 者：今栄貞吉(体育研究所)

日 程：平成12年11月1日(水)、8日(水)、10日(金)、15日(水)、17日(金)

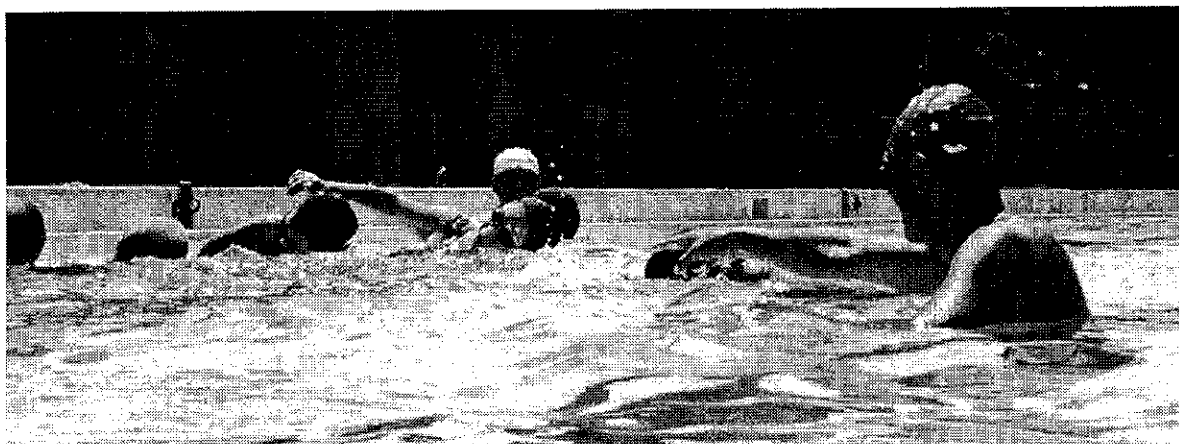
時 間：18:00～19:30

場 所：体育研究所1F トレーニングルーム

参加者数：12名

受講料：5,000円

体力テストを行い、参加者が自分の現在の体力レベルを認識した上で、エアロバイクやトレーニングマシンを使ったトレーニングに心地のよい汗を流した。ストレッチや巧緻性のトレーニング、スポーツマッサージなど家庭でもできるトレーニング方法も紹介した。受講生全員に引き続きトレーニングルームを利用して頂くことになり、公開講座終了後もトレーニングルームで参加者の方々の顔を見ることができたのはとてもうれしいことである。



3. 教職員対象フィットネスプログラム

1) エアロビクス教室（春）

期 間：平成12年5月19日（金）～7月7日（金）
毎週金曜日

時 間：PM 17：00～18：00

回 数：計8回

場 所：体育研究所3F エクササイズスタジオ

登録者数：22名

1回平均参加者数：12名

講 師：鈴木智子（体育研究所非常勤講師）

2) エアロビクス教室 (秋)

期 間：平成12年10月6日(金)～12月8日(金)

毎週金曜日

時 間：PM17:00～18:00

回 数：計8回

場 所：体育研究所3F エクササイズスタジオ

登録者数：17名

1回平均参加者数：12名

講 師：鈴木智子(体育研究所非常勤講師)



4. ディスカッション・ミーティング

テ ー マ：「キャンパスライフとスポーツ——21世紀の展望——」

日 時：2001年1月15日(月) PM 16:30-18:00

場 所：日吉キャンパス J-11 番教室

参加者数：約50名

講 師：増淵まり子氏

(東京女子体育大学3年・シドニーオリンピックソフトボール日本代表)

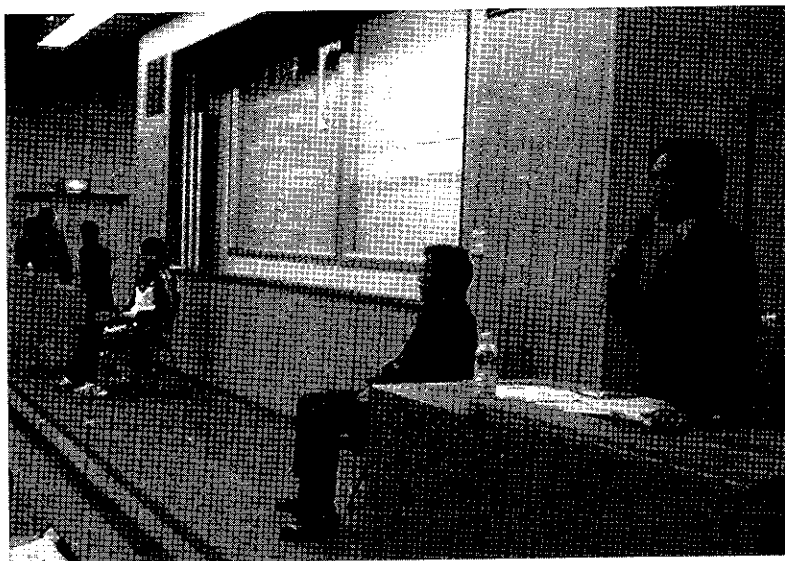
堀場雅彦氏(㈱日本プロテニス協会理事・慶應義塾体育会庭球部総監督)

司 会：石手靖(体育研究所専任講師)

体育研究所では、スポーツについて考え、大学について考え、その結果として、大学や地域のスポーツ環境がより整えられることを願い、新春のディスカッション・ミーティングを企画した。

増淵氏には、シドニーオリンピック出場の体験談を中心に、ソフトボールとの出会いや

代表となるまでの経験、学生という立場での代表活動（学業との両立など）など、彼女自身のキャンパスライフとスポーツを語って頂いた。堀場氏には、テニスを通して感じられている、学生（一般学生・体育会部員）、プロ選手、一般のテニス愛好者のスポーツ感についてお話を頂いた。その後、司会者、講師、観衆を交え、意見交換を行った。



5. 他機関との連携

1) 第15回「スキーの集い」への講師派遣

主 催：慶應義塾大学学生総合センター「大学生活懇談会」
期 間：平成13年2月7日（水）～10日（土）
場 所：新潟県六日町ミナミスキー場及び上越国際スキー場
宿 泊：

いろりあん

引率教職員：

植田史生・石
手靖・望月康
司（体育研究所）、
増田直衛（文学
部）、川田孝征・
鎌田智子（三田
学生総合セン
ター）

参加者数：38名

天 候：

曇（2/7）、
晴（2/8～10）



2) 横浜市民講座への講師派遣

テーマ：ウォーキングの科学

主 催：慶應義塾大学日吉キャンパス

日 程：平成12年9月30日

場 所：慶應義塾大学日吉キャンパス

講 師：近藤明彦（体育研究所教授）

近年、食生活の問題や運動不足から生じる生活習慣病に対する認識の高まりと共に、その予防措置としてのウォーキングが注目されている。

本講座では、生活習慣病がなぜ現在問題にされるかから始まり、正しいウォーキングの方法とその生理学的効果について概説した。

また、ウォーキング実施前後の快感情の変化について MCL (mood check list) の結果をもとに説明するとともに、数ヶ月にわたり継続的にウォーキングを行った前後の自覚的体力尺度の変化を説明した。これらの事柄はウォーキングが体力的要素のみならず心理的な側面に対しても効果を持つことに対する理解を深めるためのものである。

さらに、ウォーキングの目的に関して市村・近藤の提言する10の分類について概説した。それは、「思索の歩行、宗教的歩行、自然観照の歩行、達成への歩行、訓練の歩行、余暇活動としての歩行、コミュニケーションとしての歩行、教育的歩行、見せるための歩行、健康のための歩行」として取り上げられるが、運動継続に関しての心理的戦略としてアソシエーション方略よりもディソシエーション方略の方が運動参加及び継続率が高いという観点から、運動とは直接関係のない歩行に関連する様々な目的に関して概説することにより、運動参加ならびに運動の継続をより高める目的で説明された。

テーマ：オリンピックとスポーツ

主 催：慶應義塾大学日吉キャンパス

日 程：平成12年10月7日

場 所：慶應義塾大学日吉キャンパス

講 師：松田雅之（体育研究所助教授）

フランスのピエール・ド・クーベルタンが、「青少年の健全な育成や世界平和」を唱えて始まった近代オリンピック大会は、今や参加国 200、出場選手 10000 人を超える世界最大のスポーツイベントとなっている。

2000 年 9 月には、21 世紀最後のオリンピックとなる第 27 回シドニーオリンピックが開催され、様々な面で注目されるオリンピックとなった。ナショナリズム、商業主義、アマチュアリズム、ドーピング等、近代オリンピックの抱える問題は沢山ある。今回の大会は、その中でも自然環境を考えた「グリーンオリンピック」、アンチ・ドーピングやその他の不正行為を許さない「クリーンオリンピック」をスローガンに、21 世紀に向けてオリンピックの新しい方向性を考える重要な大会となった。

本講義では、オリンピックの目的、理念などを踏まえ、オリンピックという巨大スポーツイベントを様々な角度から論じた。また、本講義はシドニーオリンピック大会終了直後

に行われたが、演者自身、シドニー大会を見学してきていたので、より新鮮な話題も提供することができた。

テーマ：表現媒体としての身体——多様な表現の可能性——

主 催：慶應義塾大学日吉キャンパス

日 程：平成12年10月21日

場 所：慶應義塾大学日吉キャンパス

講 師：佐々木玲子（体育研究所助教授）

人は様々な形を通して他者に何らかのメッセージを送り、そしてまた他者はそこから何ものかを読み取る。身体による表出・表現はそのひとつの手段であり、多岐にわたる多くの情報を多様な形で伝達しうる。言語以外の表現媒体としての“身体”を私達は持っているわけである。

身体素材が異なると表現そのものや表現方法も異なってくる。発達の観点からみた大人と子どもの動作の違い、動作・表現の性差、文化差、等々、素材の質によって表われてくるものもそれぞれに違ってくる。

舞踊や演劇などの動作・身振りでは、日常動作とは異なり、誇張あるいは抑制され、「型」や「様式化」された動きとして表現される。表現芸術における身体の使い方、型としての表現技法には特有の方法が存在し、その修得には長年の積み重ねが必要となるものが多い。また様式化された表現型を演じ、表現するためには、素材である身体は究極まで鍛え上げられ、時に日常的であることさえ否定されることもある。芸術表現においては、表現された動きの特徴を探ることだけにとどまらず、それに伴って表現素材である踊り手の身体的特性もサイエンスの対象として非常に興味深いものがある。

このように動きによる表現と表現する主体として身体を、自然科学的な視点を中心に定量的、定性的にながめ、その多様な可能性を見直してみたいと思う。

6. 所内施設の開放

1) トレーニングルームの開放

塾生の健康の増進と体力の向上を目的として、トレーニングルームの授業使用時間以外（15：00～18：00）を塾生および教職員に開放した。体育研究所所員および学生スタッフにより、各器具の使用方法的説明、健康体力テストの実施、初心者に対するトレーニング指導を行った。年々利用者数は増加傾向にあり、特に今年度はチラシ等の宣伝効果もあり、利用者数が急増した（昨年度426人→今年度1197人）。しかし、このトレーニングルームの開放について認知していない塾生および教職員も数多く存在しているようである。今後、更なる広報活動を推進し、利用者のニーズに対応すべく、よりよいトレーニング環境を提供したい。

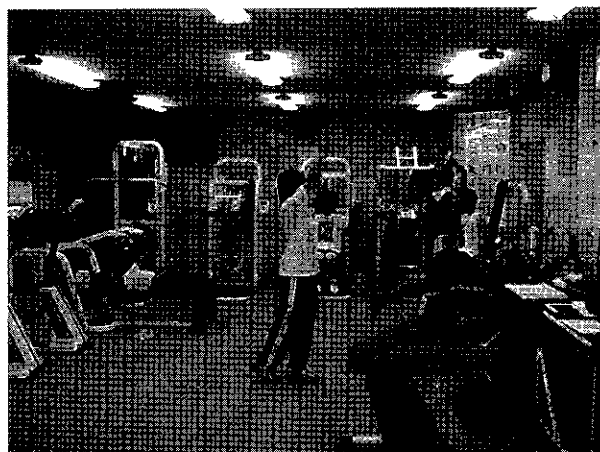
	学 生	教職員	合 計
春学期	602	88	690
秋学期	436	71	507
年 間	1038	159	1197

2000年度 トレーニングルーム開放時間&担当表

	月	火	水	木	金
15:00					
16:30				村松	小牧
18:00	石手	國廣	望月	野口	村山

学生スタッフ

開放日程: 4/16~4/20, 5/7~7/18, 10/1~12/20, 1/7~1/23



2) エクササイズスタジオ（3F）の開放

塾生の多種多様な活動への支援活動として、エクササイズスタジオの授業使用時間以外をサークル等に解放した。

使用団体：ボクシング愛好会（水・木曜日 16:30～18:00）

ダンスサークル SIG（土曜日 12:00～14:00）

第4部 総務分野

体 育 ・ 知 育 ・ 徳 育

体育研究所主事 中 嶋 孝 雄

職務上、大学塾生家族懇談会で津々浦々に出張する。ご家族は、子供がスポーツに熱中して学業が疎かにならないかと心配の言葉を投げられる。私はそのとき、心配は要りません、スポーツに打ち込む熱意・情熱を持つ者は同等かそれ以上に学業に集中するエネルギーを発揮する力があります、とお応えすることになっている。スポーツに時間を取られて落第したという例は聞いたことがないし、文武両道の者が大成される事実を知っているからである。

体育研究所のある日吉キャンパスは、四季折々、豊かな自然に囲まれた施設で体育に精を出す塾生を目にすることができる。人生でもっとも瑞々しい青春の人間像に触れるのである。

○平成12年4月1日 ・小牧久見子君が助手（嘱託）として採用される。

○平成12年4月3日 ・大学の入学式が執り行われる。フレッシュマンの誕生である。日吉記念館に新入生を、ご父母は日吉会堂およびJ教室から映像で式典に臨んでいただく。学部ガイダンス、科目ガイダンスを経て履修申告である。今年からWebによる履修申告が始まった。一人一人の1年間の学習計画を確定する最も重要な手続きである。日吉設置科目4164科目中、保健体育科目348科目、全塾生の8153名（延数）がいずれかの科目を学ぶことになる。スポーツを愛するものはその容姿からしてその雰囲気包まれている。

○4月3日 ・講師懇談会がグリーンズカフェで開催される。体育研究所では専任教員のほか33名、斯界のプロフェッショナルである非常勤講師を委嘱している。懇談会では授業を質量の両面から成果あらしめるため懇談が繰り広げられる。

○4月6日から14日、22日 ・新入生歓迎行事として文化教養スポーツの面から幾つかのイベントが行われる。

体育研究所からは、Keio Ball-games Festa 2000 の企画が提供されて、サッカー、バレーボール、タッチフットボール、ラクロス、フライングディスクが日吉陸上競技場で開催され多くの塾生が参加した。

○6月10日 ・塾長杯フットサル大会。33チーム400名の塾生が参加。日吉記念館は熱気に包まれた。

○6月12日 ・専任教員から研究業績書が提出される。これは過去1年間の研究教育業績の成果をまとめたもので、毎年この時期主事を経て提出される。

○6月19日 ・IT技術の向上を受けて、総務委員会から所内の会議資料等E-mailを活用することが提案され、紙ベースからネットワークに置き換えられることになった。

○6月20日 ・実技指導員会議が三田キャンパスの山食において開催される。講師懇談会と対をなすもので、講師懇談会が体育実技Ⅰの担当で非常勤講師であるのに対して、体育実技Ⅱの担当は実技指導員という。前者はウィークリー・スポーツを指し、後者はシーズン・スポーツ、即ち夏、冬の期間に集中して修得するスポーツ種目のことである。

実技指導員は種目のいわば専門家、触発を享けスポーツに開眼する塾生も多い。オータム、ウィンター期間集中のことであり事故対策には十分な対応策が必要となる。

○6月24日 ・塾長杯バレーボール大会。60 チーム 900 名が参加。塾長杯の特色は、経験者から未経験者と幅の広さにある。

○7月11日 ・2000 年度通信教育部スクーリング、体育実技スタッフ決定。伝統ある大学通信教育部のスクーリング中の体育も研究所が担当しているが、14 種目と担当者およびスタッフが決まった。

○7月20日 ・大学公開講座「中高年のための水泳教室」始まる。昨年より体育研究所が設置した公開講座で社会人を対象として、大学教員から直接指導を受けられるところに特色があり、地元港北区にお住まいの方が大半である。高嶺教授から水泳の泳法等が伝授され、修了証書が 34 名に授与された。

○9月6日 ・体育実技Ⅱのある種目開講中に盗難事件起こる。今後は盗難予防をも配慮した準備が必要となろう。

○9月12日 ・浅野基金使途について協議さる。

昭和 45 年浅野均一氏の指定寄付金により創設された浅野基金は、研究所の研究教育資金として役立ってきたが、より研究面への有効な活用に供すべく研究委員会で協議。毎年度、研究補助を明確にしたルールを策定した。

○10月17日 ・平成12年度分定期刊行物 7 洋書購読取り止め（毎年、10月から翌年までの 1 年分契約の洋雑誌）。インターネット上で Full Paper がダウンロードできる雑誌が増えたこと。学術情報データサービス COINS（Contents Information Service）等の利用による個人単位の情報受信も可能になったことを受けて研究委員会から提案さる。先に決まった会議資料と同じく紙ベースからネットワークへの転換を意味する。同時にキャッシュフローも変化して行く。

○10月28日 ・塾長杯バレーボール大会日吉記念館で開催さる。参加 52 チーム 400 名、6 人制15点先取の 1 セットマッチで争われた。

○11月1日 ・公開講座「中高年のためのトレーニング教室」開講さる。今栄教授による指導で14名が修了した。

○11月11日 ・塾長杯フットサル大会日吉記念館で開催。36チーム 430 名、全地区の塾生が参加。熱戦が繰り広げられた。終了後、表彰式で塾長杯贈呈があり懇親会で相互の健闘をたたえた。この日で春秋の塾長杯戦終了。多くの塾生が珠玉の汗を流した。

○11月15日 ・大学日吉体育会庭球部蝮谷テニスコート（東側）3 面改修。

磨耗したベースラインゾーンの砂入り人工芝を除去して人工芝を張替えた。テニス授業の向上に有益なものとなった。

○平成13年 1 月 ・体育研究所紀要第40巻第 1 号刊行さる。研究所の学術研究誌。1 年に 1 冊、40年続いている。

・「慶應義塾大学体育研究所プロジェクト研究報告 2000」刊行。

同じ月に 2 冊の研究書が発刊された。平成 8 年、『21世紀のスポーツ・健康教育——慶應義塾を発信源として——』の命題の下、研究プロジェクトが企画され、爾来 5 年、そ

の成果が公刊されることになった。想えば、義塾には“先成猷身而後養人心”という塾祖の言葉が伝えられ実践されてきた。先ず体育、続いて知育、徳育を養ってきた。報告書は体育が人間形成に拘わる源泉を解析教えている。

- 1月11日 ・体育委員会開催。体育教育および研究所に関する重要事項を審議する会議体である。昇任人事が審議されたほか、研究所の教育・研究活動について報告された。
- 1月15日 ・ディスカッションミーティング、J11教室で開催。シドニーオリンピックソフトボール日本代表増渕まり子選手ら出席。スポーツ振興委員会石手委員長の司会でスポーツに与する理念・精神・環境等について論議が深まる。
- 3月15日 ・バレーボールコート（馬場コート）および鉄扉補修、新学期の使用に備えてサーフェイスの塗り替えを行った。
- 3月30日 ・体育研究所受付事務室改修新装なる。これまでの業務委託形式を廃止。4月1日から嘱託職員1名、アルバイト2名により運営することになった。
- 3月31日 ・助手（嘱託）の須田芳正君、村松憲君が任期満了となり退職する。

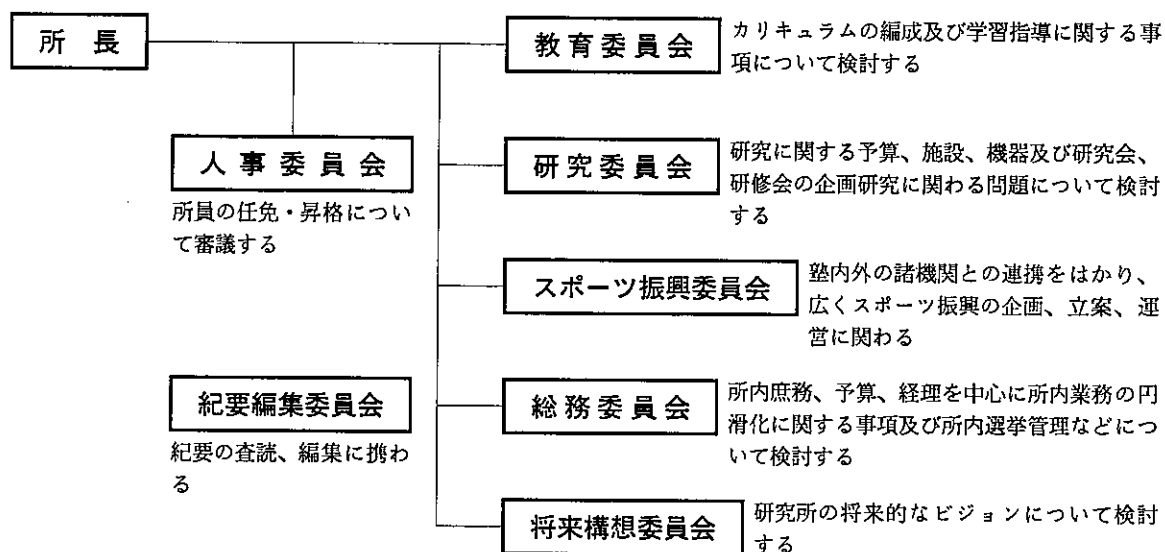
体育研究所の活動を少し距離を置いて、1年間振り返ってみた。表に出る結果は水面下でのひたむきな労力の積み重ねによって現れることを学ぶのである。

体育研究所及び所内組織図

体育研究所所員名簿

氏 名		所 属 委 員 会
所 長	高 嶺 隆 二	人事委員会、紀要編集委員会
教 授	橋 本 治 雄	人事委員会、紀要編集委員会
	今 栄 貞 吉	人事委員会、研究委員会、紀要編集委員会
	近 藤 明 彦	人事委員会、教育委員会、紀要編集委員会
	安 藤 勝 英	人事委員会、総務委員会、紀要編集委員会
助 教 授	篠 原 しげ子	研究委員会
	植 田 史 生	人事委員会、スポーツ振興委員会
	綿 田 博 人	スポーツ振興委員会
	松 田 雅 之	研究委員会
専任講師	佐々木 玲 子	教育委員会
	石 手 靖	スポーツ振興委員会、将来構想委員会
	山 内 賢	教育委員会
	吉 田 泰 将	総務委員会、将来構想委員会
助 手	加 藤 大 仁	教育委員会、将来構想委員会
	村 山 光 義	教育委員会、研究委員会、将来構想委員会
助 手	野 口 和 行	スポーツ振興委員会、総務委員会
助 手 (嘱 託)	須 田 芳 正	教育委員会
	村 松 憲	研究委員会
	望 月 康 司	スポーツ振興委員会
	小 牧 久見子	総務委員会

体育研究所組織図



平成12年度活動報告書

平成 13 年 7 月 1 日発行

[非売品]

編 集：活動報告書編集委員会

高嶺 隆二 安藤 勝英 佐々木玲子
吉田 泰将 石手 靖 村山 光義
野口 和行

発 行：慶應義塾大学体育研究所

〒 223-8521 横浜市港北区日吉 4 - 1 - 1

制 作：(有)梅沢印刷所

〒 108-8345 東京都港区三田 2 - 15 - 45

